

会報

南桜風



第15号

平成29年3月15日発行



Faculty of engineering
Kagoshima university

「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <http://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

会報の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。

*メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

メールアドレス変更のお知らせ（同窓会事務局のアドレスが変わりました。）

*新メールアドレス：kadai.eng.dousoukai@gmail.com

FAX：099(285)3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。（FAX番号と同様）

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいたきますとともに改めてお知らせいただければ幸甚に存じます。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「同窓会名簿の訂正・追記」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

住所不明者の調査協力をお願い

同窓会では平成25年度（平成26年3月）に同窓会名簿第15号を発行しました。

発行にあたりましては会員の皆様へハガキにてお知らせすると共に名簿の掲載内容のご意向を伺うなど個人情報観点からも万全を期すよう鋭意努力しております。しかしながら今現在、連絡先の判明しない方が多数おられます。そこで、今回は会報の郵送とともに同期の方で住所が確認できていない方の氏名を明記しております。ご存知の方がいらっしゃいましたら同窓会事務局までお知らせください。

よろしく願いいたします。

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。すでに配布された名簿はシリアルナンバーによって管理されており、第三者が利用した場合はそのシリアルナンバーより所有していた卒業生が判明しますので、取り扱い等には十分に留意してください。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

E-MAIL : kadai.eng.dousoukai@gmail.com

同窓会ホームページ <http://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）

ごあいさつ

同窓会会長 松 永 洋 文	2
工学部長 渡 邊 睦	3
OBより 下之菌 太郎	4

各学科・専攻の状況

機械工学科	5
電気電子工学科	5
建築学科	6
環境化学プロセス工学科	8
海洋土木工学科	8
情報生体システム工学科	9
化学生命工学科	10

在学生から

在学生 福 田 隆 史	12
在学生 高 須 八千代	13
在学生 谷 口 康太郎	14
留学生 高 舒 恒	15

工学部体育祭

叙勲・受賞

教員の異動

部会だより

機友会	19
錦水会	24
AOI会	30
南窓舎密会	35
しらなみ会	39
稲盛賞・学部長賞他	44
岸園賞	46
進路状況	47
工学部同窓会役員・ 部会各支部役員名簿	50
本部だより	52
特別寄稿	58
工学部同窓会諸活動支援	62
工学部同会学生諸活動 助成金報告	66
編集後記	69
広告掲載	70

同窓会名簿第16号延期のお知らせ

工学部同窓会では同窓会名簿を3年毎に作成しております。(但し、平成17年に施行された個人情報保護法に則っての調査を有した為、第13号発行の際は前号から5年後となりました) 通例では次号は平成28年度の作成となるところですが、来る平成32年に鹿児島大学工学部が創立75周年を迎えることから、同窓会名簿も周年事業に合わせての発行に向けて作成・発行を行うこととなりました。

現在、会員の皆様の住所判明率は61%となっております。そこで、次号に向けましてはより判明率を高めるよう、情報の収集を行いたいと考えております。また、作成に関しましては個人調査にて掲載に関する意思の確認を行ったうえで、編集を行ってまいります。

会員の皆様方にはご理解を賜りたく、さらに同窓会名簿第16号の作成につきましては従来に増してのご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、その間は毎年会報の発行を計画しております。



つながり

松永 洋文

工学部同窓会会長（海士52）

鹿児島大学工学部同窓会会員の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

ここに「南桜風」第15号の編集を終えましたのでお届けします。

私も学部同窓会活動に携わり早2年の一所懸命が過ぎようとしています。確かな活動が、情報発信ができたでしょうか。不安に感じているところ です。

隣の熊本県で未曾有の地震災害が発生しました。同窓会員のご無事を祈りつつ、不幸にも被災された方や関係者へ心からお見舞い申し上げます。

また、夏場の大雨による東北・北海道の洪水被害、鹿児島での台風被害、さらには鳥取の地震と各地の災害にも心が痛みます。

被災地区の復旧・復興が早々に進むことを心から祈るものです。

昨年度は大分県支部のお招きにより、総会と懇親会に参加させていただきました。毎年本部から参加して情報交換等の交流を続けております。

大分県支部はこのたび唯一の工学部の支部として、長年の活動に対しまして「岸園賞」を受賞され、8月の「司（つかさ）会」で表彰されました。おめでとうございます。

本年度は11月に工学部関東合同同窓会へ伺いました。3年ごとの開催で、今回担当のAOI会のお世話のもと関東地区で活躍の会員が多数参集され、鹿児島からの大学の先生、同窓会連合会関東支部のご来賓を含む100名を超える熱気に包まれました。そこでは鹿児島大学工学部と芋焼酎への熱い想いを肌で感じることができました。

各種の会合に出席するごとに、各部会及び他地区の支部等との連携を強め、絆の切れた同窓生とのつながりの復活と新たに社会へ羽ばたく若者を繋ぎ止めることが大切であると痛感しております。同窓会活動の活性化を図るべく、先輩・同輩・後輩・皆様のご助力・ご意見をいただきたく、お願いいたします。

鹿児島大学同窓会連合会は工学部など8学部の同窓会で組織され、私も副会長という役で工学部としての意見を述べられるよう努めており、『鹿大「進取の精神」支援基金』への拠金のお願いもしております。

昨年充実した「岸園基金」の活用方策も広げております。海外留学の経験者と留学希望者との情報交換会への援助を行い、好評価を得ました。新たな活動・分野での支援要請があれば広い心・眼で対応できればと目論んでおります。

工学部創立75周年事業は、学部に事業委員会が設置され、事業計画の検討が始まります。同窓会でも学部との連携を図る必要があると考えております。

工学部長・工学系長職に就いてから、早くも2年が経過しようとしています。幸い、低落傾向にあった入試倍率は今年度大幅に回復し一安心といった心境ですが、今後もこの状況を継続すべく、入試説明会やオープンキャンパスなどで工学部アピールに努めています。

H28年度は国立大学法人における第3期中期目標・中期計画の初年度で、これからの6年間の方向を定める重要な年であり、「強み・特色の重点化」、「グローバル化」、「イノベーション創出」、「人材養成機能の強化」の4つの機能強化に対する改革を積極的に行っていくことが強く求められています。鹿児島大学では、共通教育改革、法文学部・教育学部の統合改組、教職大学院の設置など、新しい取組を実施しつつありますが、機能強化が不十分と判定され、Dという厳しい評価を受けている状態です。大半の地方大学と同様「地方貢献型」を選択していますが、地方貢献に関する取組しか実施しなければ鹿児島大学の地位は低下する一方です。一方理工系（特に工系）に関しては、労働力人口減少の中、高付加価値なイノベーションを創出する人材の育成に大きな期待が寄せられ、H27年3月に「理工系人材育成戦略」が文科省から発布されています。現在は産学官円卓会議の示唆を受け、経済産業省と文部科学省が協同して戦略の充実・具体化を推進している状況です。

人件費の赤字を解消するために、人的リソースが抑制され、かつ共通教育改革における基礎教育科目の学部担当への移行など教員負担が増大する中で、いかにして活力を生み出すかということが最重要課題です。工学部では、これまで培ってきた強み・特色を維持しつつ、昨年度立ち上げた工学部将来計画ワーキングを中心に、多面的評価に基づく入試改革と入学後の進路決定を両立するためのカリキュラムの設定、第3期中期目標・中期計画期間に工学部が更に活性化するための具体的方策を練っています。活性化の第一弾として、「エクセレント・レクチャー選考・表彰制度」を新たに導入し、今年度から実施することとしました。これは、専任教員を対象に、当該年度中に実施した共通教育科目・専門教育科目の実施状況、授業評価アンケート、授業計画改善書などの資料に基づき、最も優れた教育を行った教員を各学科1名ずつ選出し、翌年度4月の教授会で副賞を添えて表彰するものです。教育面の業績を顕在化し、優れた教育手法を共有化することが狙いです。

第2弾として、研究面の活性化のために**教育研究アドバイザー制度**を来年度から実施すべく進めています。また学長裁量経費の支援を受け行った「農水工連携ワーキング」では、農学部、水産学部、工学部の若手教員が8回の打ち合わせを実施し、3つの融合テーマを策定するなど着実に成果を挙げています。

工学部の将来を考える上で、同窓会は欠かすことのできない大きな存在です。工学部創立75周年記念事業委員会において、同窓生を中心とするメンバーが様々な記念事業の企画検討を行っています。同窓会の皆様の更なるご支援を宜しくお願い致します。



工学部百年の計に向けて その2

工学部長

渡邊

睦



大学・同窓会への感謝

下之菌 太郎

応用化学工学科2003年卒業（平成15年卒業）
鹿児島大学大学院理工学研究科 化学生命・化学
工学専攻（工学部環境化学プロセス工学科）助教

同窓会の皆様におかれましては、様々な分野でご活躍のことと存じます。この度は卒業生から一言を書くように依頼があり、大学・同窓会を通して成長させていただいたことへの感謝の気持ちを記すよい機会をいただいたとうれしく思っております。私は1999年に鹿児島大学に入学し、応用化学工学科で学びました。化学が好きでしたので講義の内容は大変興味深いものでした。分厚い教科書を何冊も購入し大学生になったのだと実感しました。講義で理解できなかったところを何度も読み返したのを覚えています。環境やエネルギーに関する研究を行ってみたいと思い、平田好洋教授と鮫島宗一郎助教授の研究室で固体酸化物形燃料電池の研究を行いました。いただいた卒論のテーマはHebb-Wagner法による希土類固溶セリアの電子伝導度の測定でした。複数のテーマの中から学生同士の話し合いで選ぶことになっていたので、軽い気持ちでこのテーマを選びました。実験を始めてみるととても難しく、研究室の先輩や友人に手伝ってもらいながら、なんとか実験データを得ることができました。もっと深く研究してみたいと思い、大学院に進学し、2008年3月にナノ構造先端材料工学専攻の博士後期課程を修了しました。博士論文の指導をしていただいた先生方をはじめ研究室の仲間には大変お世話になり感謝しております。卒業後は物質・材料研究機構で1年半と産業技術総合研究所で3年半の計5年間ポスドク研究員として働きました。物質・材料研究機構では固体酸化物形燃料電池の材料の合成と電気物性の評価を行いました。産業技術総合研究所では国のプロジェクトである固体酸化物形燃料電池の耐久性評価と加速試験法の確立に参画し、電解質材料の劣化に関する研究を行いました。家庭用の固体酸化物形燃料電池は2011年10月に世界で初めてJX日鉱日石エネルギーから販売されました。一つの技術が市販されるまでの過程の中で研究を行うことができ、また、産業技術総合研究所では実機に近いところで研究することができ大変幸運でした。その後は鹿児島大学で助教に採用され2013年4月から再び平田教授の研究室で研究を開始しました。現在は自ら実験する機会は減ってきており、学生をサポートする立場となりました。学生の頃実験が苦手な先生や仲間に助けていただいたことを思い出し、学生に良いサポートができるように心がけています。これまで、同窓会主催の講演会などを通してご活躍されている先輩方から仕事に取り組む姿勢など多くのことを教えていただいております。社会に出ると壁にぶつかることも多々ありますが、同窓会を利用させていただき、良い仕事ができるように精進いたします。末筆ではございますが、皆様のますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

各学科・専攻の状況

機械工学科

学科長 松崎 健一郎

機械工学科および機械工学専攻では、機械工学の基礎知識・専門知識を修得し、それらを基として工学的諸問題を自主的に分析・解決する能力を持ち、コミュニケーション能力に優れ、かつ国際的な場でも活躍できる技術者・研究者を育成することを目標として、教育・研究活動を推進しています。平成27年11月にはJABEE認定の継続審査を受け、引き続き平成27年4月1日から6年間、JABEE認定プログラムの基で教育活動を行うことが認められました。学生在籍数は、平成28年7月現在で学部生445名（内、留学生7名、女子学生19名）、博士前期課程学生112名（内、留学生5名、女子学生3名）となっています。

教員構成は、平成28年12月現在、生産工学コースが9名（教授3名、准教授3名、助教3名）、エネルギー工学コースが7名（教授3名、准教授2名、助教2名）、機械システム工学コースが9名（教授4名、准教授3名、助教2名）の計25名体制となっています。平成28年3月には、機械工学科のために長年ご尽力いただきました井手英夫教授が定年退職され、林良太准教授が岡山理科大学に転出されました。一方、平成28年3月には小金丸正明准教授が福岡県工業技術センターより、同年5月には田淵大介助教が北九州工業高等専門学校より着任され、先進的研究分野を開拓されている教員が新たに2名加わりました。また、平成28年12月には余永先生が教授に昇任されました。

環境面では、平成24年度末に改修された機械工学科1号棟に続き、機械工学科2号棟の改修につきましても計画を進めており、さらなる教育・研究環境の整備が期待されます。

教員構成や教育研究環境は年々変わっていきませんが、機械工学科がさらに発展し今後も社会に貢献し続けていくには、同窓会会員の皆様方のお力添えが不可欠であります。引き続き変わらぬご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学科

学科長 八野 知博

平成27年4月から教員は学術研究院理工学域工学系に所属し、大学院理工学研究科電気電子工学専攻と工学部電気電子工学科の教育を「主担当」とする形になっております。平成28年4月現在、電気電子工学科、電気電子工学専攻を主担当とする教員は22名です。教職員の人事につきましては、平成28年3月に小原幸三教授が定年退職され、同1月に渡邊俊夫准教授、同4月に永山務助教が着任されました。一方、平成29年3月には宮島廣美教

授、池田稔技術長が定年退職されます。また、同4月には電気エネルギー工学分野に助教1名が着任予定です。

電気電子工学科は、学部教育プログラムに関して平成17年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、平成22年の継続審査を経て、平成28年10月30日～11月1日に継続審査の現地審査を受けました。正式な審査結果は平成29年4月に届くこととなりますが、現時点では継続認定が見込まれる審査結果が得られております。このJABEEでは、社会からの要望、意見を教育プログラムに反映させて、継続的に教育改善を行っていくことが求められております。本学科では昨年度から「カリキュラムに関する外部連携会議」と称して11月開催の「きばっど会」の際に講師の方から学科の学習・教育到達目標やカリキュラム、新しい取り組みなどについてご意見を伺う企画を実施しており、本年度はソニーセミコンダクタソリューションズ(株)の齊藤新一郎様から貴重なご意見を伺うことができました。この他、定期的に卒業生アンケートを実施して教育プログラムの改善を続けていきますので、今後ともよろしくご協力の程お願いいたします。

同窓会の皆様には、学生への教育研究支援事業である「新入生ウェルカムパーティ」「きばっど会」等で多大なご支援をいただいております、心から感謝申し上げます。これからも社会に貢献できる人材の輩出に向けて教職員一丸となって努力してまいりますので、同窓会の皆様には今度ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

建築学科

学科長 鯨坂 徹

「一新した学科棟で新たな教育がはじまりました」

4月に建築学科棟の改修工事が竣工し移転も終了、大学では新たな環境で今年度の建築学科の教育活動がはじまりました。

学科棟の改修は「既存建築のオーセンティシティを生かす」を基本方針に、ブレース補強を止めて機能上必要な壁を耐震壁に活用する、使える素材＝例えば現場テラゾー等＝は可能な範囲再利用する、内断熱工法により外装磁器タイルを継承する等々を実現しました。各先生の研究室は縮小しましたが、2階に2年生3年生のスタジオ（B-STUDIO）ができ、学部生全員が設計する場を得られて、学生スペースが格段に拡充されました。また、新たな試みとして、4階の計画系の研究室はオープンラボ化され、内部連絡階段で環境系実験室を改修した5階の修士のスタジオ（M-STUDIO）と直結されました。1階の図書室は、本部図書館に本を移設し、工学部ギャラリーにリノベーションされ、学生作品の展示が可能になっています。是非、一度、学科棟をご覧いただければと思います。

なお、製図棟は、2017年3月頃から改修工事に入り、1階にことづくりセンターのギャラリー、レクチャールーム、2階にことづくりセンター（技術部）、3階に建築学科1年生のスタジオ、学科会議室等が設けられる予定です。

一方、3月に本学科の卒業生の鷹野敦准教授がフィンランドのアールト大学（旧フィンランド工科大学）から着任し、4月に建築計画系の朴光賢助教が名古屋大学から着任しました。鷹野敦准教授は、設計活動をされながら計画、構造、環境の中間領域の研究を進められています。朴光賢助教は、都市計画をはじめとする理論的研究だけでなく、韓国の全北大学との交流や今後の鹿児島大学の国際交流の活性化の大きな力になると期待されます。

建築学科のホームページも一新され大変好評ですので、こちらも一度ご覧いただけませんか。

昨年度5月のアメリカタスキギー大学との交流につづき、韓国全北大学との交流が実現できました。今後はフィンランドのアールト大学やイタリアのフィレンツェ大学との交流も計画中です。皆さまのご協力もあり、工学部内では受験者倍率、合格最低点とももっとも高い状況です。しかし、国立大学の大きな流れとして、人員削減、研究費削減、地域連携、他大学他専攻との融合や協同が言われております。鹿児島大学工学部建築学科では、これまでの伝統を継承しつつ、次の時代にどのようにバトンをわたすか全教員で真摯な議論を続けています。是非、皆さまのご支援をお願いするとともに、ご意見を何かの機会にお伝えください。鹿児島、九州、日本、世界で活躍できる学生を育成できるよう、学科として今後とも努力して全力で取り組みます。



環境化学プロセス工学科

学科長 平田 好洋

新年おめでとうございます。学科の近況をご報告致します。

昨年4月に41名(定員35名)の新1年生が入学しました。内、1名が中国からの留学生です。同様に昨年4月に23名の4年生が大学院博士前期課程(定員17名)に進学しました。2017年3月時点の4年生は37名で、内23名(62%)が本学の大学院へ進学する予定です。就職・進路決定者は10名です。お陰様で博士前期課程2年生、16名の就職先も決定しました。卒業生のご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。以下の企業から大学院生へ内定を出して頂きました:凸版印刷、ダイキン工業、京セラ、大阪富士工業、山九、ヤマト電子、広栄化学工業、ニチゾウテック、新日鉄住金化学、栗田工業、住友化学、東洋紡、ソニーセミコンダクター、NOK、ニチアス、積水化学工業。2016年8月6日に工学部オープンキャンパスが開催されました。228名の高校生とその保護者の方々が、本学科のポスター及び実演会場にこられ、学科の特色や就職状況について多くの質問をされました。2016年9月24日には、化学工学会化学工学技士(基礎)の資格試験を3年生34名、4年生13名、博士前期課程1年生7名、博士前期課程2年生4名の計58名が受験しました。内、31名が合格しました。次年度は更なる合格率向上を目指しています。2016年10月22日に開催されました、第24回南窓舎密会総会及び講演会では、昭和49年化学工学科卒業の(株)日阪製作所社長、前田雄一氏に「日阪製作所の経営理念」の講演をして頂きました。多くの卒業生、在校生、教員が講演をお聞きしました。2015年12月11日に名誉教授の吉福功美先生が、残念ながら86歳で他界されました。ご冥福をお祈り致します。本学科は10名の教員で構成されていますが、2015年度の論文・著書数は39報でした。4研究室の学生を含めた学科の口頭発表件数は100件でした。2016年度の文部科学省科学研究費助成金の採択件数は4件、科学技術振興機構助成事業は2件、民間との共同研究は8件、奨学寄付金は6件で、計20件の外部資金を導入しました。2015年度も同様に24件の外部資金を導入しました。その他、学生の学会ポスター賞も数多く受賞しました。このように小さな学科ではありますが、教員と学生が一丸となり教育・研究の向上のために努力しています。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。

海洋土木工学科

海洋土木工学科長 山城 徹

本学科は現在、「環境システム」と「建設システム」の2つの分野から成り、「環境分野」には教授3名、准教授2名、助教2名、「建設分野」には教授2名、准教授4名、助教1名を配置して、社会に有為な海洋土木技術者の育成に努めています。また、浅野先生は地域防災教育研究センター長、武若先生は地域コトづくりセンター長も務められ、地域の諸問題の解決に尽くされています。

平成28年4月には、コンクリート工学を専門とする、本学科卒業生の小池賢太郎氏が助教として着任されました。現在、本学科の教員14名のうち8名を卒業生で構成し、他では例の見ない卒業生の充実ぶりです。一方、本学科で教育・研究指導して頂きました豊田昭三元教授（平成4年～平成8年）が平成28年9月に逝去されました。教職員一同、心よりご冥福をお祈り申し上げます。さらに、平成10年に着任されてから長年の間、本学科の地盤工学の教育・研究に携わって頂いた山本健太郎 助教が平成28年3月に他大学へ異動されました。また、海洋土木工学科の設立（昭和48年）以来、本学科の教育・研究支援にご尽力頂いた技術職員の愛甲頼和氏（昭和50年着任）、城本一義氏（昭和54年着任）が平成29年3月に定年退職を迎えられます。

平成28年度の最大のトピックと言えば、長年の悲願であった学科棟（昭和50年建設）の改修が決定したことです。現在、若手教員が建物の詳細設計を協議しています。平成30年にはリニューアルした校舎をお披露目できますので、楽しみにしてください。教育面では、平成27年に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査に合格し、JABEE認定教育プログラムであることが継続できています。研究面では、水害・土砂災害現地観測システムや複合的な自然災害リスク評価システム等の大型予算の実験装置を新設することが決定し、地域防災に関わる新たな教育・研究活動を展開できるようになります。少数ですが、教職員一丸となって、本学科の教育・研究に積極的に取り組んでいます。

平成28年度の就職状況については、卒業生の皆様のご尽力もあり、およそ希望する企業・官公庁に就職できました。今後とも、ご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

情報生体システム工学科

学科長 佐藤 公則

情報生体システム工学科の近況についてご報告いたします。平成21年度工学部改組に伴って立ち上げた「情報生体システム工学科」は、早くも7年が経過いたしました。本学科は、学部学生定員80名、博士前期課程学生定員42名と工学部の中でも規模の大きい学科・専攻です。

本学科では、情報処理とネットワークを主とする情報システム工学、知の理解と応用を主とする脳認知工学、ヒトの状態の計測を主とする生体計測工学の3つの教育研究組織を有しております。現在、教授7名、准教授9名、助教7名の教員合計23名の体制で教育・研究を推し進めております。平成28年3月には、長年本学科に貢献して頂いた湯ノ口万友先生がご退職されました。研究に関しては、対外的にも多くの賞を獲得しており、随時、学科・専攻のホームページ (<http://www.ibe.kagoshima-u.ac.jp/>) のトピックスに掲載されておりますのでご覧いただければ幸いです。また本学科では、平成27年度の鹿児島大学学長裁量経費により「アクティブラーニング推進のための主体的学習支援教材制作・共有環境整備事業」を推進し、長期的視点を持つアクティブラーニングへの取り組みを開始いたしました。取り組み内容は、工学部研究報告「情報生体システム工学科におけるアクティブラーニングの取り組み」(全13頁)、「アクティブラーニングのための予習用教材の作成」(全7頁)として公表いたしました。

取り組みの一環として、大人数AL授業実施に向けた71号教室の改修をおこない、固定机と固定椅子を破棄し、移動可能な什器に置き換え、学生同士が向かい合い、議論を行える形式に対応しました。72、73号教室には、側面および後方壁面にホワイトボードを設置し、グループ学習における議論ができるようにしました。

学生へのサービスを充実すべく、全階のトイレの改修も行い、気持ちの良い教育・研究の環境も整えたところがございます。オープンしたばかりの学生専用のピアサポート室へは自由に入出りができ、学生同士のピアサポート、リラックスルーム、就職資料の閲覧など、パソコンなども完備した使いやすい部屋を提供することができ、早速学生らは、有効に利用を開始しているところがございます。

同窓会の皆様には、学生への教育研究などのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。教員が一丸となって、社会に貢献できる人材の輩出に一層努力して参りますので、今後ともご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

化学生命工学科

学科長 大木 章

本学科は、「化学」をキーワードとして、有機化学、物理化学、分析化学、生化学、環境化学、高分子化学、バイオテクノロジーなどを専門とする教員によって、教育と研究を行っています。現在の教員構成は、物質環境化学コースの教授として肥後、大木、准教授として吉留、上田、高梨、中島、金子、助教として満塩の計8名、生体化学コースの教授として隅田、門川、橋本、准教授として山元、助教として橋口、若尾、新地の計7名です。

本学科では、教員の科学研究費補助金や各省庁の補助金など外部資金の獲得率が高く、また教員のみならず学生も積極的に国内外の学会や学術雑誌に成果を発表し、各種の賞を受賞するなど、学科全体として活発に活動しております。本年度の教員の受賞としては、門川教授のマレーシア材料学会からのRoyalty Award（5月）およびInternational Association of Advanced MaterialsからのIAAM Medal（6月）、肥後教授の2016年度九州分析化学会賞（11月）があります。また、11月には隅田教授が中心となり、日台米の国際シンポジウム（JTBW2016 & KNJS2016）が鹿児島大学で開催されました。本学科の教育プログラムは、平成23年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）により審査を受け、6年間の認定がなされました。このJABEE水準を維持すべく教員一同が努力してきており、来年度認定継続の審査を受ける予定です。

卒業生の皆様には、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、本学科への変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



在学生から

「興味が将来の夢となった大学生活」

情報生体システム工学部4年
福田 隆史

私は情報技術への漠然とした興味から、工学部情報生体システム工学科に進学しました。大学入学当初は、「なんだか情報技術とかプログラミングってかっこいい」といったふわふわとした興味しかありませんでしたが、学部での講義や実験を通して情報技術の様々な分野に触れることで、その興味はだんだんと固まっていき、今ではこの技術を使って新しいモノを創りたいと強く思うようになりました。

私の研究の目的はバイオメトリクス認証において従来のシステムよりも高いセキュリティ性を持ち、かつ優れたユーザビリティを提供できる新しいシステムを開発することです。こうした研究をしていく中で、思った通りにプログラムが動かないといったことや触れたことのない技術が必要なことなど、うまくいかないことがたくさんあります。ですがこうした経験のおかげで今まで学んできた技術を活用することができ、今までの講義では学ぶことのできなかつた知識を得ることができています。

来年度からは大学院に進学します。大学院では学部での研究を発展させることはもちろん、学会での研究発表や資格取得のための勉強、海外での活動などによってさらなる自己の向上のための経験を積みたいと考えています。また、私には将来、自分のやりたいこと（情報技術関連）を職業にするといった目標があります。簡単なことではないかもしれませんが、そのために、この2年間はその目標から逆算し、これからの自分が本当にすべきことは何か判断しながら過ごして行きたいと思います。

最後に、自分は今の自分は出会ってきたすべての人々に刺激を与えられ、そのおかげで成り立っていると考えています。情報生体システム工学科の先生方、同期、先輩、後輩、サークルのメンバー、すべての出会った人々に感謝しています。そして特に大学院進学や海外活動を支えてくれた家族にはいくら感謝してもしきれません。こういった方々に恩を返すためにも、学生生活で得た経験を活かし、優れた技術者になることを目指して努力し続けたいと思います。



在学生から

重ねる目標

博士前期課程 建築学専攻

高須 八千代

自分が負けず嫌いな性格だと自覚したのは、小学校高学年の頃でした。現在、学部、大学院を通し建築を学び6年が過ぎ、この負けず嫌いな性格は建築学科という場所にとっても向いていると思います。

私は幼少期に、地元の風景をよく描いていました。その頃から徐々に自分で一つの世界を創ってみたいと思い始めたことが建築学を選んだきっかけだと思います。その頃思い描いていた建築のイメージと、現在自分が対峙している建築設計の世界との間に多少のギャップを感じたりもしますが、選んだことを後悔したことは一度もありません。建築の世界は、学内の課題にしてもコンペにしても、常に勝負の世界だと感じています。建築を学ぶ以前から、スポーツでも勉強でも芸術でも、とにかくどの分野でも誰にも負けたくありませんでした。そのため、私は誰よりも努力することが至極当然のことなのだと考えていました。私の努力を怠らない根源の一つは、間違いなく負けず嫌いな性格にあったと思います。それは、専門性の高い建築という道を選んだ後も変わらず、一つのモチベーションとして私の原動力になっていたのだと思います。その反面、最も苦勞したことは、自分が負けた時に、その事実をしっかりと認めることでした。しかし、それを受け入れることができた時、さらに次の目標が生まれ新たな原動力に昇華させてきたと思います。大学生活で、自分の負けを繰返し、乗り越えたことが自信の蓄積となり、これからの未来に繋がって行くのだと思います。

来年からは、自分が目指していた建築世界の最先端で、実際に建築や街を創造していかなければなりません。当然それは容易なことではなく、より大きな責任やプレッシャーを抱えると思います。それでも大学生活で得た知識や経験を糧とし、更に多くの目標に立ち向かい常に向上心を忘れず、とにかく負けず嫌いな自分でいたいと思います。



在学生から

「社会人学生活動を通して」

システム情報科学専攻3年

谷口 康太郎

私は本学大学院理工学研究科の技術職員として3次元CAD、製図、機械加工等の教育や機械工学専攻余研究室の研究支援、その他大学運営業務を行う傍ら、博士後期課程の社会人学生として脳卒中片麻痺患者用のリハビリ装置の開発と臨床応用の研究を行っております。

私は12年前に本学機械工学科を卒業して神奈川県自動車メーカーに就職し、自動車の設計開発に携わりました。その後、鹿児島でその経験を活かして働きたいと思い、6年前に本学に採用が決まりUターンを決意し、再び母校に戻りました。そして、5年前から先輩職員の紹介で本学大学病院霧島リハビリテーションセンターとご縁を頂き、片麻痺患者を対象とする電気・振動刺激等の多種促通刺激を用いた肘伸展と肩屈曲の分離訓練用リハビリ装置の開発と臨床応用の研究を行っております。入職して間もない頃は、臨床研究や学会発表、論文執筆等の経験や専門知識も乏しく、胸を張って研究ができるとは言えない状況でした。ちょうどその頃、研究支援先の余永教授から博士後期課程への入学を勧められ、技術職員の同僚6名も社会人学生として博士後期課程で学ばれており、それも後押しとなって入学を決意致しました。

私の研究ではモーターを用いずに、訓練中に得られた運動情報から最適な促通刺激の介入制御を行いながら、共同運動の分離訓練を促す装置を開発しました。共同運動とは重度から中度の片麻痺患者に現れ、目的運動以外の関節が一緒に動いてしまう現象のことです。これを分離して患者自身の随意的な運動によって目的の運動のみ訓練することが必要ですが、そのような理論に基づくリハビリ装置はそれほど多くありません。本提案装置はシンプルな機構でありながらも上肢左右の肩屈曲と肘伸展の各々の分離訓練・評価を実現し、有効性と利便性、安全性を兼ね備えています。臨床研究では振動刺激、電気刺激、電気・振動組合せ刺激を用いた訓練手法を考案し、さらに片麻痺患者ボランティアの訓練を行い、電気・振動刺激手法の短期的な効果が有意に確認され、提案装置訓練の有効性を示しました。本研究の遂行にあたり、余先生にご指導を賜りながら科研費（奨励研究）へ応募したところ、平成26年、27年度に連続で採択され、研究活動の勢みとなりました。そして、在学3年間において研究成果を査読審査の国際会議で6件、国内会議で1件発表することができました。その内、名古屋で開催されたメカトロニクス系の国際会議ICM2015ではBest Paper in Session Award、岡山で開催されたICME国際複合医工学会のCME2015ではBest Student Awardを受賞したことで学長表彰され、身に余る賞を頂きました。これらの英語での論文執筆や発表を通して、様々な世界中の研究者から意見をもらい、大変貴重な経験をさせていただきました。3年間ご指導賜りました余先生並びに副査の先生方、病院の先生方、そして応援・協力して下さったボランティアや研究室の学生達、家族、同僚に心から感謝しております。

今後は博士後期課程を通して得られたスキルを学生指導や今後の研究にも活かして研究成果が社会へ還元できるように精進して参りたいと思います。



留学生から

社会に役に立つために

理工学研究科 博士前期課程 1年生

海洋土木工学専攻

高 舒恒

(コウ ジョコウ)

私が高校のとき、英語を担当していた先生の親戚が留学生であったため、しばしば授業中に海外のことについて教えていただきました。そのときから留学することで、学生・私生活は充実し、自立できるというイメージを持っていました。そして、高校卒業後には海外へ留学しようと思いました。そして留学先を日本にした理由は、中国の有名な政治家や文学者（周恩来や魯迅）などが日本に留学した経験があったことやテレビなどを通じて文化的に興味を湧いたため留学することを決めました。

多くの留学生が感じるように、私も、日本に来た当初はとても不安でした。その当時、私は19歳であり、日本語も全然喋れませんでしたが、日本語学校でたくさんの優しい先生たちのおかげで、日本語を使えるようになりました。日本語学校を卒業後、進学先として、鹿児島大学海洋土木工学科を選んだ理由として、2008年の中国四川大震災があります。この地震で多くの人なくなり、また道路は寸断され支援活動もままなりません。このような背景から、地震が多い日本での、成熟した建物や橋の耐震技術を学びたく、海洋土木工学科を選びました。

さらに現在の日本では、新設構造物を建てることよりも、既設構造物を維持管理し上手く継続して使用する時代に変遷しています。中国でも、20~30年後には同様な状況になると考えられ、構造物の維持管理技術についても学びたく、鹿児島大学大学院へ進学し、鋼構造物の防食技術に関して研究を行っております。研究の概要としては、塩害環境下にある鋼構造物は鋼材腐食により、構造物の要求性能を満足出来なくなる可能性があります。そのため、鋼構造物の適切な防食工法の選定が重要となっており、私は電気防食という工法に注目し、日夜研究に没頭しています。将来の目標は、大学・大学院での種々の成果を生かして、新設・既設問わず適切な維持管理により、自然災害に耐えられる・長く使える・より強い建物を作りたいと思います。

最後に、勉強は大事ですが、それ以外のことにもチャレンジしたいと思っています。例えば、異文化の理解や外国語の習得も重要なことだと思います。これから、私は日本の企業に就くために頑張ります。自分を磨き、もっと専門知識を身に着けたく、社会に役に立つできる人材を目指します。

工学部体育祭

平成28年11月19日 鹿児島大学第二体育館 約130名

工学部体育祭では、多くの学科から人が集まり、経験者も未経験も関係なくバスケットボールを懸命に取り組み、参加者が皆楽しむことができたものとなった。

(機械 あらかわ 荒川 ふみや 典哉)



叙勲・受賞 ～おめでとうございます～

受賞 (受賞年月順)

受賞者 (OB)	賞 名	論文タイトル	交 付	受賞月
武若 耕司 (昭和52年卒) 現・海洋土木 工学専攻教授	平成27年度 土木学会 吉田賞	腐食発生限界塩化物 イオン濃度の測定方 法とその定量化に関 する研究	公益社団法人土木学会	2016年6月
小池賢太郎 (平成23年卒) 現・海洋土木 工学専攻教授	SCMT4 Award Winning Paper	Study on chloride ion penetration model considering water absorption in concrete	Fourth International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies -SCMT4-	2016年8月

受賞者 (学生)	賞 名	論文タイトル	交 付	受賞月
藤元 祐行 (平成28年卒) 現・海洋土木 工学専攻 1年生修士	若手技術者 優秀発表賞	地下埋設RC構造物の ひび割れ漏水部にお ける補修対策に関す る実験的検討	一般社団法人日本防錆 技術協会	2016年7月

教員の異動

<昇任>

(機 械) 余 永 教授 平成28年12月1日付 機械工学専攻 准教授

<採用>

(電 気) 渡邊 俊夫 准教授 平成28年 1月 1日付 日本電信電話(株)

(機 械) 小金丸正明 准教授 平成28年 3月 1日付 福岡県工業技術センター

(建 築) 鷹野 敦 准教授 平成28年 3月 1日付 Aalto University, School of Arts, Design and Architecture, Finland

(電 気) 永山 務 助教 平成28年 4月 1日付 山口大学大学院理工学研究科

(建 築) 朴 光賢 助教 平成28年 4月 1日付 名古屋大学大学院環境学研究科

(海 土) 小池賢太郎 助教 平成28年 4月 1日付 鹿児島大学大学院理工学研究科

(機 械) 田淵 大介 助教 平成28年 5月 1日付 北九州工業高等専門学校生産デザイン工学科

<転出>

(機 械) 林 良太 准教授 平成28年 3月31日付 岡山理科大学工学部機械システム工学科

(海 土) 山本健太郎 助教 平成28年 3月31日付 西日本工業大学工学部総合システム工学科

<定年退職>

(機 械) 井手 英夫 教授 平成28年 3月31日限り 昭和50年 4月 1日から平成28年 3月31日

(電 気) 小原 幸三 教授 平成28年 3月31日限り 昭和50年 4月 1日から平成28年 3月31日

(情 生) 湯ノ口万友 教授 平成28年 3月31日限り 昭和50年 4月 1日から平成28年 3月31日



機友会

平成28年11月12日(土) 本部総会写真 その1

機友会本部の活動状況

機友会総会は、平成28年11月12日(土)、温泉ホテル中原別荘にて、内門暉史関東支部長(S43卒)、斎藤和幸中京支部長(S47卒)、是枝隆二関西支部長代理(S55卒)、田和政行福岡支部長(S50卒)の来賓のもと、参加者57名で、福原稔庶務幹事の司会進行により開催された。総会では、初めに高崎征忠会長(S39卒)の挨拶、大重俊則議長(S60卒)が選出、中尾光博会計副幹事による会計報告、吉満正美監事(S53卒)による監査報告などが行われ、これらが承認された。総会后、「現役学生のキャリアデザインとOBのキャリアパス～大卒に求められる能力と就職～」という演題で、コーディネーターの石原田秀一氏(H8卒)及びパネリストの田中覚氏(H9卒)と當房幸一郎氏(H10卒)によりパネルディスカッションが行われた。



平成28年11月12日(土) 本部総会写真 その2

懇親会は、中尾光博会計副幹事の司会進行により高崎征忠会長の挨拶により開催された。来賓の池田徹機械工学副専攻長から来賓挨拶、浜崎和則氏（S39卒）による乾杯を行い、杯が酌み交わされた。その後、恩師の松村博久先生と門久義先生、内門暉史関東支部長、斎藤和幸中京支部長、田和政行福岡支部長、是枝隆二関西支部長代理らによる挨拶が行われた。宴会の最後には、當房幸一郎氏による万歳三唱で盛況のうちに閉宴した。

平成28年度機友会各支部の活動を以下のとおり報告する。



進行中のパネルディスカッション

福岡支部の活動状況

平成28年機友会福岡支部総会が平成28年12月3日(土)、西鉄イン福岡13Fの「ブロッソ」において開催されました。当日は来賓2名（大学：上谷先生、恩師：有富先生）と会員9名の計11名の出席者で、例年に比べて少し少なめでしたが、その分顔を付き合わせているような話をじっくりとする事ができました。

総会では会計報告が議案として提案され、原案どおり承認されました。

その後、柳会計幹事の司会で懇親会に移り、有富先生の乾杯の音頭と近況報告、上谷先生から大学の現状報告があり、会員の近況報告へと続きました。

有富先生は大学退職後は佐世保ご在住で、今回は佐世保よりお越しいただきました。

また、上谷先生は鹿屋ご出身との事で、懐かしい鹿児島島の言葉でお話をいただきました。



平成28年12月3日(土) 福岡支部総会写真

会員の近況報告では、最近の健康状態や退職後の趣味の話など多種多様な話が飛び出し、趣味でヨットに乗られている先輩（S47学部卒・村瀬先輩）の九州一周の話など、出席者一同大いに盛り上がりました。

福岡支部の課題として、若い方の参加が少ない（他の支部も同様かもしれませんが）事がありますので、大学や機友会本部と連携をとりながら、出席者が増えるように努力していきたいと思います。

支部総会は毎年11月の第1土曜日開催を基本としていますので、お知り合いの方がおられましたら、その旨お伝えいただくと幸いです。（文責：幹事 田中）

（現行支部役員）

【支 部 長】	田和 政行（S50卒）	【会計幹事】	柳 和宏（S57卒）
【副支部長】	松岡 寛孝（S49卒）	【会計監査】	後藤 康史（S52卒）
【幹 事】	田中 宣秀（S58卒）		

関西支部の活動状況

「関西支部」の総会は平成28年7月2日（土）に大阪市内の「大阪マルビル大阪第一ホテル」にて、浜崎先生、福原先生のご来賓のもと、49名で開催した。

総会は田中浩文代表幹事（昭53卒）の開会の辞で始まり、明石支部長（昭42卒）の挨拶・岸園賞紹介、浜崎先生から下茂忍氏（昭34卒）に岸園賞の授与、そしてご来賓の二人の先生に鹿児島大学の近況のお話を含めたご挨拶を頂きました。

支部長から会則および幹事人選のルール改正の提案、新三役の推薦があり承認されました。講演としてダイハツ工業(株)の田中浩文氏に『軽自動車の歴史と最新の自動車技術について』と題して講演して頂いた。

続いて懇親会では、岸園賞を授与された下茂忍氏の乾杯でスタートし、歓談の後、来年度の三役や幹事の紹介、各テーブル毎の紹介およびスピーチと和やかに進み、応援歌である七校寮歌の「北辰斜めに」を唱和し、内山六郎氏（昭34卒）の万歳三唱で盛況の内に閉演した。



平成28年7月2日（土） 関西支部総会写真①



平成28年7月2日（土） 関西支部総会写真②

最後に明石支部長の永年に亘り支部長職の責務を果たされ、関西支部の活性化に数々のご貢献を頂きましたことに深く感謝を申し上げます。今後は新3役・新幹事で任務を果たしていく決意でございます。

来年度は平成29年7月1日(土)に今回と同じ「大阪マルビル大阪第一ホテル」で開催の予定です。

中京支部の活動状況

「中京支部」の総会を平成28年7月8日(金)に愛知県知立市の「ホテルクラウンパレス知立」にて開催しました。機友会本部から門先生の御来賓を仰ぎ、静岡、三重等の遠方からの出席や本年度入社 of 若手会員の出席もあり総勢70名で盛会しました。

総会は本年度幹事会社のトヨタ自動車(株)の司会進行のもと、支部長の斎藤和幸氏(S47卒)の挨拶に始まり、会計報告及び承認に続き、御来賓の門先生より鹿児島大学近況のご報告を頂き、米倉 央氏(S30卒)の発声による乾杯ののち歓談となりました。そして、今回の会の目玉として、門先生による水力からくりについての貴重なご講演を頂きました。

知覧をはじめ鹿児島の多くの地域で行われていた小水力活用の歴史や現在の地域おこしの状況を知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。そして、各社、若手の方に近況を報告して頂き、そのまま壇上で「巻頭言」「北辰斜めに」を合唱し、副支部長青木幸久氏(S49卒)による万歳三唱で盛況のうちに閉宴しました。

中京支部では幹事会を定期的に開催し中京支部総会の活性化に向けた運営を行っています。遠方からの会員や若手会員が参加しやすい環境作り、本部の協力を得ての新卒者への入会の促進などに取り組んでいます。来年度は平成29年7月14日(金)に開催予定です。



平成28年7月8日(金) 中京支部総会写真 その1



平成28年7月8日(金) 中京支部総会写真 その2

関東支部の活動状況

11月12日に開催されました工学部関東合同同窓会に機友会関東支部より14名が参加しました。機友会本部からは松崎教授、木下教授にご出席いただきました。総会后、建築学科塩屋教授の興味深い講演を拝聴し、工学部の更なる飛躍に期待をいたします。懇談会、二次会では現役の両教授に大学の現況を伺い、また参加者との忌憚ない意見交換をいたしました。機友会関東支部は年々参加者が少なくなっており、若い方々の参加と会運営への協力を期待しております。



平成28年11月12日 関東支部総会写真

錦水会



平成28年度 錦水会本部・鹿児島支部 総会・懇親会

平成28年10月29日 ホテルパレスイン鹿児島

◇本部・鹿児島支部◇

錦水会本部・鹿児島支部の総会開催

鹿児島副支部長 池田 浩二

錦水会では本部と鹿児島支部の総会を平成28年10月29日、鹿児島市のホテルパレスイン鹿児島で開催しました。3年度に1度開催の錦水会本部総会と各年開催の鹿児島支部総会では、これまでの活動・決算・監査報告それに次期活動計画などが提案され、各議事案すべてが可決、承認されました。各支部長や現役学生など約41人が出席した懇親会では最後に全員が肩を組んで1つの輪となり、旧制七高寮歌「北辰斜め」と「記念祭歌」を大合唱して閉会しました。

◇関東支部◇

工学部関東合同同窓会

関東支部編集幹事 宮下 勉

工学部関東合同同窓会が平成28年11月12日、目黒駅近くの三州倶楽部で行われました。この会は3年毎に計画されており、今回は建築学科(AOI会)が幹事で準備いただきました。来賓含め約110名の参加があり異業種間の交流と旧友との交誼を深めました。母校からは、渡邊工学部長を始め各学科



より先生方が多数出席され、錦水会関係では、電気電子工学科の福島教授、情報生体システム工学科の二宮准教授に出席いただきました。なお平成29年9月24日には全学部の同窓会連合会関東支部による同窓会が計画されています。改めてご案内いたしますので宜しくお願いいたします。

工学部産学交流会

関東支部会長補佐 亀澤 和雄

電気電子工学科の学生20名が工場見学のため上京しました。引率は電気電子工学科の山本吉朗教授と甲斐祐一郎准教授です。錦水会関東支部では9名のOBが出席し、平成28年9月6日の夜に、東京オペラシティ54Fの「オペラシティ東天紅」に於いて交流会を開催しました。



◇東海支部◇

東海支部からの近況報告 ～健康であろう！～

東海支部長 永野 博

11月12日、遠方の佐賀、東京、静岡からの出席も頂き、楽しい有意義な支部総会を持ちました。評議会、総会の報告に続き、理工学研究科の奥田先生より大学の現状をお聞きし、大学自体、学生自体の変容に皆さん少し驚きの表情でした。また、宗方名誉支部長からの「人が作った物は必ず壊れる。」「壁は発生する。これを突き破り進めるのが仕事、人生というもの。」この含蓄ある言葉に、改めて心に留めおこうと思った人も多数の筈。出席者の近況報告では、「健康一番」を思い知らされました。会は、若い方々と人生ベテランとの会話があちらこちらで見られ、お互い、元気を貰い合う盛り上がりの中で、総会を終えました。



◇関西支部◇

平成27年度 関西支部総会

関西支部長 白濱 和人

平成28年3月12日(土)に大阪市の道頓堀ホテルにて、関西支部総会を開催いたしました。総勢30名の参加があり、大学より平山斉先生(電気電子工学科)、三嶋道弘先生(情報生体システム工学科)の2名の先生をお迎えしました。総会に先立ち、三嶋先生にはご研究

についてのレクチャーをいただきました。総会に続く懇親会では平山先生に母校の近況をご紹介いただきました。



◇福岡支部◇

平成28年度 福岡支部総会

福岡支部長 権藤 正信

平成28年11月26日、天神テルラで、情報生体システム工学の岡村先生にご出席いただき、32名で開催しました。第1部では権藤支部長の挨拶、会員の近況報告、平成27年度決算報告、平成28年度予算案や役員の変更などの承認を実施しました。第2部では、懇親会開始に先立ち、岡村先生から大学の状況を紹介していただきました。懇親会は最年長の西谷さん（昭和41年卒）の乾杯で始まりました。懇親会は先輩・後輩関係なく笑顔で楽しい雰囲気、非常に盛り上がり、予定の2時間があっという間に過ぎてしまったという感じでした。閉会の前に恒例の蓮尾紀博さん（昭和56年卒）の指導のもと、「あつい涙」、「北辰斜に」を全員で歌い、最後は一番若手の成富圭司さん（平成28年卒）の万歳三唱で閉会としました。



情報生体システム工学の学生会との懇親会

福岡支部長 権藤 正信

平成28年9月7日、情報生体システム工学の王先生、岡村先生と学生13名が福岡地区の工場見学で来福されましたので、天神テルラで福岡支部役員・会員9名の総勢24名で懇親会を実施しました。懇親会では、先輩から就職に当たっての経験談やアドバイス、学生からも積極的



に質問がなされるなど、楽しく盛り上がった懇親会となりました。

◇熊本支部◇

平成28年度 熊本支部総会

熊本支部長 小田 博昭

平成28年10月1日(土)熊本市のANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて、学内から電気電子工学専攻の宮島廣美先生にご出席いただき、開催しました。総会は出席者全員で亡き永田昭三先生への黙祷で始まりました。続いて役員改選について審議し、長期化した体制となっていますが引き続き現行体制で臨むことになりました。また、平成27年度の会計・監査報告及び平成28年度の予算と活動計画についても了承されました。一方、宮島先生からは工学部・電気電子工学科の変遷や研究テーマなど、学内の近況報告を頂きました。懇親会は、古賀広昭(昭和45電気院卒)先輩の乾杯によりはじまり、出席者皆さんの近況報告をはじめ、久しぶりに出席いただいた浦上先生との昔話など、時間のたつのも忘れ大変楽しいひと時を過ごしました。



熊本支部総会



宮崎支部総会

◇宮崎支部◇

平成28年度 宮崎支部総会

宮崎支部長 野崎 公憲

平成28年10月22日に県庁本館近くの「和食の橋」において、母校より情報生体システム工学専攻の福元伸也先生にご出席いただき、総勢15名で開催いたしました。総会においては、永田昭三先生及び本年ご逝去された山口純一先生に全員で黙祷を捧げました。例年通り会計報告、役員選出について審議しましたが、出席者対策の努力目標を戴き、昨年と同様の役員体制となりました。大学の近況報告として、福元先生からは、計算機等の最新情報や地元における取組事例及び学科の就職状況等について熱意あふれる報告を戴きました。懇親会は、昭和37年卒の福岡隆様の乾杯により始まり、出席者の趣味、仕事等の近況報告等も交え、時間を忘れ大変楽しいひと時を過ごしました。最後に、本支部の特徴となる合唱部OBの大合唱に合わせ、若い高らふ感情の旋律のもと、「記念祭歌」、「巻頭言」、「北辰斜に」を謳い散会となり、多くの方は二次会へと移動となりました。

◇学内関連◇

新入生歓迎ウェルカムパーティー

平成28年度も鹿児島サンロイヤルホテルの昼食バイキングを利用し開催されました。6月17日は、電気電子工学科の新入生85名、OBと教員15名が参加し、葉山会長と山下修氏（電気昭62卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。6月29日は、情報生体システム工学科の新入生71名、OBと教員12名が参加し、池田本部編集幹事と山田壽樹氏（情報22卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。



ウェルカムパーティー（電気電子）



ウェルカムパーティー（情報生体）

学生向け講演会「きばっど会」

第14回目となる平成28年度は、10月29日に、建築学科棟01号教室で開催されました。講師にソニーセミコンダクタソリューションズ(株)の齊藤新一郎氏とMozilla Japanの吉永満太郎氏をお迎えし、これから進路選択や就職活動を迎える学部3年生と修士1年生の学生に向けてご講演いただきました。当日は、電気電子と情報生体の学生の他、教員、OBも参加し約170名が聴講しました。



錦水会ホームページのご紹介

総会等の最新情報の確認、住所変更等の錦水会へのご連絡は、錦水会ホームページにアクセス下さい。

<http://kinsuikai.sakura.ne.jp/>



◇学生の受賞◇

※受賞日順、学年は受賞当時（*は発表当時）

- ・待木祐人（電気電子工学専攻2年，指導教員：宮島廣美）：第18回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会「学生優秀講演賞」，H28年12月
- ・田中亮佑（情報生体システム工学専攻2年，指導教員：佐藤公則，渡邊睦，福元伸也，鹿嶋雅之）：第6回バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム「SBRA優秀発表賞」，H28年11月
- ・小野智司（情報生体システム工学専攻 准教授）：第26回インテリジェント・システム・シンポジウム「FAN最優秀論文賞」，H28年10月
- ・平石貴将（電気電子工学専攻2年，指導教員：川畑秋馬，平山齊），平成28年電気学会産業応用部門大会 ヤングエンジニアポスターコンペティション「YPC優秀発表賞」及び「IEEE IAS Japan Chapter Young Engineer Competition Award」，H28年8月
- ・松下侑輝（博士後期課程3年，指導教員：川崎洋）：第19回画像の認識・理解シンポジウム「MIRU学生奨励賞」，H28年8月
- ・辻井優伸（電気電子工学専攻2年，指導教員：西川健二郎）：Thailand-Japan Microwave 2016 Young Researcher Encouragement Award，H28年6月
- ・上園翔平，黒木優吾，重信拓音（情報生体システム工学科3年，コーチ：情報生体システム工学専攻1年 水間大資）：国際大学対抗プログラミングコンテスト2016アジア地区つくば大会（ACM-ICPA2016）「Director最優秀新人賞」，H28年6月
- ・宮島洋文（博士後期課程3年*，指導教員：重井徳貴）：Best Student Paper Award of The 2016 IAENG International Conference on Artificial Intelligence and Applications 及びBest Student Paper Award of The 2016 IAENG International Conference on Internet Computing and Web Services，H28年5月
- ・川崎洋（情報生体システム工学専攻 教授）：平成27年度日本生体医工学会論文賞・阪本賞，H28年4月
- ・湖田孝康（情報生体システム工学専攻 准教授）：International Symposium on Artificial Life and Robotics 「Best Paper Award」，H28年3月
- ・傍田啓介，根比暲（情報生体システム工学専攻1年，指導教員：佐藤公則，渡邊睦，鹿嶋雅之）：2015年度ドコモ近未来社会学生コンテスト シニア部門「優秀賞」，H28年2月
- ・畠中一成（情報生体システム工学専攻2年，指導教員：佐藤公則）：電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ「学術奨励賞」，H28年2月
- ・川崎丈（電気電子工学専攻2年，指導教員：重井徳貴）：第17回日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会「学生優秀講演賞」，H27年12月
- ・中島芳樹（電気電子工学専攻1年，指導教員：重井徳貴）：日本知能情報ファジィ学会九州支部夏季ワークショップ2015「学生優秀ポスター賞」，H27年12月

AOI会

AOI会員の皆様におかれましては、お元気にご活躍のことと拝察致します。いつも多方面からご支援いただき、心より感謝申し上げます。

本年度4月に、建築学科棟（2号棟）の耐震改修工事が竣工し、新たな建築棟での教育・研究がスタート致しました。また、3月には、学部卒業生57名、大学院修了生26人が加わり、AOI会総会員数は3,241人（内教職員62名）となります。平成28年度、AOI会活動報告と建築学科の近況をご報告致します。

第2回「AOI会建築賞」のお知らせ

AOI会では、会員同士の交流とお互いの資質を高めあうことを目的とし、2015年度に設計部門・施工部門の2つの部門において「AOI会建築賞」を創設致しました。また、本年より新たに「功績部門」を設立し、建築学科同窓会の活動・発展に尽力した者、その他同等以上の表彰に値する行為があったと認められる者について表彰する運びとなりました。第2回の募集・選考を行い、建築文化や環境形成の向上に貢献した、会員による優秀な建築作品を顕彰します。付きましては、下記をご確認の上、多くの皆様からのご応募お待ちしております。

□応募作品・応募資格

- (1) 設計部門・施工部門・功績部門の3つの部門でそれぞれ募集します。
- (2) 設計部門・施工部門については、改修・再生等の事例も含まれます。
- (3) 功績部門は、当会の発展に著しく貢献した者、または、その他同等以上の表彰に値する行為があったと認められる者を対象とします。
- (4) 応募者は、AOI会員とし、自薦・他薦は問いません。
- (5) 設計部門・施工部門については、応募作品の設計者・建築主・施工者のいずれかであること。

□提出書類

(1) 設計部門・施工部門

次の事項をA3片面横使い4枚以内にまとめ、ご提出下さい。

- ・建物の概要-用途・階数・高さ・面積表・構造種別など
- ・設計図面-配置図・平面図・立面図・断面図、その他特色を表す図面
- ・作品のコンセプト図や解説文等
- ・写真5枚以上10枚以内

(2) 功績部門について

功績内容を説明した書類をご提出下さい。

□提出先・問い合わせ先

AOI会建築賞選考事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-45

2016年度 第1回AOI会建築賞受賞者

難波 友亮 (H17卒) (株)肥後設計 「HA house」
野辺 伸一 (H3卒) (有)クラフト建築設計事務所 「鹿屋の家」
古川 稔 (S44卒) (株)アーキ・プラン 「鹿児島県立 鹿児島聾学校」
児玉 豊人 (S42卒) (株)K設計 「田中邸」

鹿児島大学第59回建築展

多くのAOI会会員の皆様のご支援によりに受け継がれている「建築学科建築展」が今年も開催されました。建築展は学生達が自主的に企画から製作まで行う展示会です。昭和30年頃からスタートし、今年で59回目を迎えました。協賛頂きました会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

テーマ | たてとよこがおりなすすきま

日時 | 2016年10月8日(土)～9日(日)

会場 | マルヤガーデンズ 7F

主催 | 鹿大建築学科3年生有志

鹿児島大学第59回建築展実行委員長

脇田佳・大津愛那

2016年10月8日(土) - 9(日)の2日間、マルヤガーデンズの7階ソラニワで鹿児島大学第59回建築展を開催しました。今回は、「たてとよこがおりなすすきま」というテーマのもと、作品を制作し、私たちが普段学ぶ「建築」というものを老若男女問わず沢山の方々に見て、知って、感じてもらいたいという思いのもと実施しました。当日はあいにくの天気ながらも多くの家族連れや学生など一般の方々が足を運んでくださいました。

最後になりましたが、広告掲載にご協力いただきました企業の皆様、アドバイスをくださった先生方、先輩方の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

AOI会 各支部の活動報告

鹿児島本部

2017年2月9日(土)に鹿児島市で「厄払い会」を兼ねた鹿児島本部同窓会が開催されました。参加者は58名で、本学の鯨坂先生、小山先生が出席され、厄年3名の厄落としを行いました。また、第1回AOI会建築賞の授賞式も行われました。本年度はご夫婦や家族連れの参加も多く、賑やかで非常に楽しい会となりました。ご家族の参加も大歓迎ですので、皆様連れ立ってご参加頂きたいと思っております。



第59回建築展パンフレット表紙



建築展会場の様子



AOI会 鹿児島本部



建築展会場の様子



AOI会 鹿児島本部

第9回「AOI会設計優秀賞」受賞式

2016年4月7日に「AOI会設計優秀賞」の授賞式が執り行われました。「AOI会設計優秀賞」は、同窓会により建築を学ぶ有望な在学生の設計活動を励ます主旨のもと、2008年に創設されました。建築設計課題に真摯に取り組み、年間を通して創作・設計活動に秀でた学生を表彰し奨励すること、また、次代を担う若者を応援することを目的としています。

□第9回2015年度 AOI会設計優秀賞

- 1年生 | 森山 陽介 常磐 侑加
- 2年生 | 高尾 奈緒 脇田 佳
- 3年生 | 則松 杏奈 松田 寛敬

建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

2002年から開催されている同会は、本年15回目を迎えました。第一線で活躍する先輩方に職業・社会・人生観について講演頂き、建築への興味とその社会的な意義の認識を深める機会とすることを目的とし企画されました。また、先輩方との交流や情報交換を行うことは、学生にとって極めて有意義な機会になっています。本年は、設備設計、現場施工、意匠設計、で活躍されている先輩方をお招きしました。今後も継続して同会を開催できるようにAOI会も支援を続ける予定です。

日時 | 2016年10月1日(土) 14:00~

場所 | 鹿児島大学 稲盛会館

講演 | 重久 大樹 平成23年修了 (株)竹中工務店

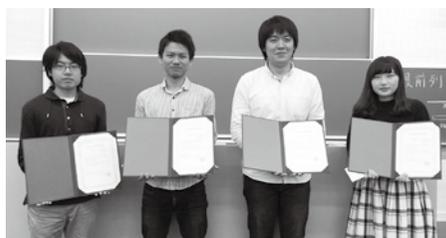
講演 | 城戸 孝史 平成16年修了 (株)藤匠住宅

講演 | 奥 貴人 平成11年修了 (株)安井建築設計事務所

工学部ギャラリーにて設計課題優秀作品展開催

2016年4月、建築学科棟2号館1階に、工学部ギャラリーがオープンしました。建築学科では、設計課題の優秀作品展を行いました。

次年度も、設計課題終了後の6月、8月、12月、3月に予定しております。是非、お立ち寄り下さい。



受賞者 左から 森山 松田 脇田 高尾



3年生後期劇場課題：松田寛敬



ポスター制作：MI 齊藤雅敏



左から 重久さん 城戸さん 奥さん



工学部ギャラリーでの設計課題優秀作品展の様子

関西AOI会

平成28年9月24日(土)に、大阪市梅田にて、関西AOI会総会・懇親会が開催されました。参加は44名また、恩師の三谷先生、本学から小山先生が出席されました。関西AOI会ではその他「AOI会ゴルフコンペ」等を行っています。

報告 曾我部 栄一郎 (平成9年卒)

関西AOI会では、毎年9月の最終土曜日に総会と懇親会を開催しています。今回は44名の参加者となり全員に一言ずつ?しゃべって頂き、最大年齢差は約60歳にもなっていますが、和気あいあいであつホームな盛り上がった会となりました。会の最後の締めは、毎年恒例の「北辰斜めに」をみんなで肩を組んで歌い楽しいひと時を楽しみました。また最近では、小規模の関西AOI会も開催して定期的な集まりを行うようにしています。



ゴルフ親睦会 2016.12.05



関西 AOI 会

教員移動

[採用] 助教 朴 光賢 平成28年4月1日 専門 | 建築計画、都市計画

各支部の年会と日程

各支部では定期的に年会が開かれております。機会がございましたら各支部の年会に出席し同窓生間の交流を深めていただきたいと思います。

鹿児島本部 毎年2月の第1土曜日	連絡先 : 099-285-8299	塩屋先生
大分支部 工学部同窓会として開催	連絡先 : 0977-25-1221	和田支部長
北九州支部 毎年12月の第1土曜日	連絡先 : 092-871-8450	守支部長
関西支部 毎年9月頃	連絡先 : 075-922-0086	小林支部長
関東支部 工学部同窓会として開催	連絡先 : 03-3263-6554	楊支部長

北九州AOI会

報告 黒木 康博（平成8年卒）

平成28年12月3日(土)に、福岡市にてAOI会北九州支部総会・懇親会が開催されました。参加者は54名、恩師の土田先生、黒木(康)先生、本学から曾我先生が出席されました。また、今年度は鹿児島大学工学部の前身の鹿児島県工業専門学校の第一期生の昭和23年卒の島さんにご出席頂きました。島さんは、御年89才。卒後70年の節目の年だから是非とも参加したいと、ご参会いただきました。お聞きしましたところ、「建築健児の歌」をおつくりになったのも島さんのお仲間ということでした。

宮崎AOI会

平成28年7月8日に、宮崎支部懇親会（参加数21名）が開催されました。また、役員変更がございましたので、お知らせいたします。毎年7月に開催されます。

支部長 田中睦巳氏（S43卒）→安部洋人氏（S46卒）

副支部長 安部洋人氏（S46卒）→新川正文氏（S46卒）



南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとしまして、まず平成28年に開催された、第24回南窓舎密会総会に関する報告を致します。

平成28年10月22日に「第24回南窓舎密会総会および講演会」が開催されました。卒業生を招いての講演会には、昭和56年応化修了、鹿児島県環境技術協会 環境分析部長兼環境分析課長 児島浩一 氏、昭和49年化工卒業、株式会社日阪製作所 代表取締役社長 環境安全室長 前田雄一 氏を講師としてお招きし、以下のようなタイトルにてご講演いただきました。大変貴重なお話をしていただき、現役学生会員および卒業生、約110名の参加者がありました。本講演会は、大学を出て10年以上経過した先輩がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等々、本音の話を聞き、「先輩の話を聞いて就職活動に勝とう」を合言葉にした講演会で、毎年総会と同日に開催しております。また、講演会后、会場を鹿児島市内のジェイドガーデンパレスに移し、総会および懇親会を開催いたしました。

■講演会 (14:30-16:20)

会場：鹿児島大学工学部 稲盛会館

講演1. 「環境を測る 環境計量事業について」

鹿児島県環境技術協会 環境分析部長兼環境分析課長 児島 浩一 氏

講演2. 「日阪製作所の経営理念 “社会人を目指す皆様へ”」

株式会社日阪製作所 代表取締役社長 環境安全室長 前田 雄一 氏



鹿児島県環境技術協会 児島様



株式会社日阪製作所 前田様

■総会・懇親会 (17:00-20:00)

会場：ジェイドガーデンパレス (鹿児島市上荒田町)

議題：1) 一般報告、本部報告 (庶務幹事)、支部報告 (各支部長)

2) 会計報告、平成27年度決算報告 (会計幹事)、監査報告 (監事)、平成28年度

予算案（会計幹事）

3) 支部出席者への本部からの補助について



第24回南窓舎密会 懇親会参加者



懇親会にて

総会後の懇親会には、染川賢一会長をはじめ、恩師である田中安彦先生、鎌田薩男先生、前田 滋先生、幡手泰雄先生、下茂徹朗先生にご出席いただきました。また、関東支部長三宅征夫様、東海支部幹事 落合志礼様、関西支部監査 田中譲次様にもご出席いただきました。宴では、講演会にてお話しいただいた兒島様、前田様の両名、その他39名の方にご出席いただき、恩師の先生方には近況を語っていただきました。また現役学生も多数参加し、同窓生の方々と焼酎を酌み交わしつつ話を弾ませておりました。

鹿児島大学工学部関東合同同窓会

平成28年11月12日に東京三州倶楽部にて鹿児島大学工学部関東合同同窓会が行われ、南窓舎密会からは、恩師として鎌田薩男先生、庶務幹事吉留俊史先生がご出席されました。吉留先生からは、平成27年度の南窓舎密会の主な活動など部会の近況報告を行っていただきました。

昭和54年応化卒業生還暦同窓会

平成28年6月4日に鹿児島市ホテルパレスイン鹿児島にて昭和54年鹿児島大学工学部応用化学科卒業生還暦同窓会が行われました。恩師として鎌田先生、前田先生、染川先生がご出席されました。還暦を迎える節目の記念同窓会で盛会であったと報告いただきました。以下にその時の記念写真を掲載させていただきます。



昭和54年 応用化学科卒業生 還暦同窓会 出席者一同

三宅征夫関東支部長 岸園賞受賞について

本会報内でも報告されておりますが、故 岸園司（きしぞのつかさ）元工学部同窓会会長のご寄付により設けられました「岸園賞」について、南窓舎密会より、関東支部長として活躍頂いております、昭和45年応化修了 三宅征夫様を推薦させていただいております。平成28年8月の工学部同窓会拡大幹事会にて審議され、三宅様の受賞が決定いたし

ました。岸園賞は、鹿児島大学工学部の名を高めた者、工学部同窓会活動に尽力した者に授与する事となっております。三宅様は、昭和45年3月に応用化学専攻を修了し、昭和45年4月に応用化学科に文部教官助手として採用された後、昭和47年1月に文部省国立教育研究所に採用され、平成21年3月に定年退職するまで37年3か月の間勤められました。長年の研究業績を評価され国立教育研究所の「名誉所員」の称号を授与されております。また、南窓舎密会の関東支部長を長年務めていただき、同窓会活動にも尽力いただいております。三宅様は、岸園賞を受賞されることに十分な功績をお持ちであり満場一致で今回の受賞決定となりました。平成29年8月に鹿児島市で開催予定の「司会（つかさかい）」にて三宅様の授賞式、受賞記念講演が執り行われる予定であります。

教員配置図（平成29年1月現在）

平成28年度においては、教員の移動はなく前年同様の体制で、各先生方教育研究活動に邁進しております。平成29年1月現在の教員配置について、下記に記しておきたいと思っております。

大学院博士前期課程 工系 化学生命・化学工学専攻（学術研究院 理工学域 工学系）

教授：甲斐 敬美、二井 晋、平田 好洋、吉田 昌弘、大木 章、門川 淳一、

隅田 泰生、橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉、上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、

中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬、新地 浩之、橋口 周平、満塩 勝、

若尾 雅広

工学部 環境化学プロセス工学科（学術研究院 理工学域 工学系）

教授：甲斐 敬美、二井 晋、平田 好洋、吉田 昌弘

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉

助教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬

工学部 化学生命工学科（学術研究院 理工学域 工学系）

教授：大木 章、門川 淳一、隅田 泰生、橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助教：新地 浩之（8月着任）、橋口 周平、満塩 勝、若尾 雅広

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

会長 萩 亮 (昭和52年卒)

しらなみ会会員の皆様、お元気でご活躍のことと思います。「南桜風」第15号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。昨年は、東北大震災の復興も道半ばというのに、熊本でまた大地震が発生し、大地震はどこでも起こりうると実感させられました。桜島もマグマの蓄積が大正噴火時と同レベルに高まりつつあるとか。災害の脅威に対する社会の不安が増幅しているように感じられる昨今です。災害対応は土木の重要な役割ですが、災害や維持管理の負担が大きくなると、活力や利便性の向上といったもう一つのインフラの役割に力を注ぐ余力がなくなっていくのではと心配されるところでもあります。

さて、しらなみ会総会は2年に1回鹿児島で開催しています。今年度は総会のない年でしたが、関東、関西、福岡、東北の4支部では毎年、懇親会開催など活発に活動していただいております。全国におられる会員の皆様にとって、鹿児島の総会に参加していただくのは、なかなか大変なことと思われるので、やはり支部活動の充実が重要だと痛感します。毎年、この会報に活動の様子を報告してもらっていますが、どの支部もその写真などから家族的な雰囲気の感じられる場となっているのではと推察しているところです。支部長さんをはじめ、中心となって会を運営していただいている方々に、改めてお礼申し上げます。今後も、支部活動の充実、支援に積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、会員の皆様、是非顔を出していただき、ますます支部を盛り上げていただきますようお願いいたします。

まもなく新年度となります。会員の皆様が益々お元気で活躍されますよう祈念します。

「しらなみ会本部活動報告」

本部庶務幹事 木佐貫 浄治 (平成2年卒)

(1) しらなみ会研究活動助成事業

平成25年度から実施している「しらなみ会研究活動助成事業」も本年度で4年目を迎えます。この事業は、学生会員の研究成果の向上を支援するとともに同窓会活動に対する理解を深めてもらうことを目的に年間10万円を限度に、学生会員に対して助成を行っています。助成の内容としては、毎年、十数名の学生に学会旅費の援助を行う共に、卒業式に併せて卒業論文の優秀講演者に対して、賞状と副賞を授与することになっています。

引き続き、学生の研究等を影ながら支援していきます。

(2) 第18回しらなみ会総会が開催されます。

同窓会会則に定められている2年に1回開催される「しらなみ会総会」を下記により開催します。前回は100名を超える同窓生の方に集まっていただきました。

今回もたくさんの方の出席をお待ちしております。

開催日：平成29年4月22日(土)、場所：ジェイドガーデンパレス（鹿児島市）

総会：16時～／特別講演会：17時～／懇親会：18時～

案内は、別途、メール等で連絡する予定ですが、連絡が見つからない方も増えています。

情報の拡散をお願いします。

また、しらなみ会のホームページでも、案内致します。

出欠に関するご連絡は、後述の庶務の幹事（木佐貫）のメールへお願いします。

HP：<http://oce.oce.kagoshima-u.ac.jp/~shiranami/index.html>

本部では、引き続き、同窓生皆様の意見を参考にさせていただきながら、同窓会活動を盛り上げたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

E-Mail（木佐貫）：george@po.synapse.ne.jp

kisanuki-george@pref.kagoshima.lg.jp

※総会への出席をはじめ、同窓生の集まり、情報提供、御意見・御要望、何でも結構です。

気軽に連絡をください。[件名に「しらなみ会」という言葉を入れていただければ助かります。]

各支部の活動報告

「東北支部活動報告」

東北支部長 山田 満秀（平成7年卒）



ゴルフコンペ写真（H28.11.5撮影）

東北支部は東日本大震災の復興にお集まり頂いた方々で結成されました。現在は9名と少人数での活動となりますが、年6回の行事を目標に懇親を図っています。平成28年度の活動としては4月、9月、11月に懇親会、8月、11月、1月（計画）にゴルフコンペを開催いたしました。

懇親会は、少人数でこぢんまりとした分、和気藹々と会話が弾み、楽しい会になりました。仙台近郊で参加されたい方がいましたら、是非、お声かけ下さい。また、年3回のゴルフコンペでは、最近ゴルフを始めた人もおり、悪戦苦闘しながらも和やかな雰囲気なかで全員が無事にホールアウトしています。回数を重ねる度に皆さん上達していつているようです！？（ゴルフはスコアじゃありません）。

このように、東北支部の特徴は、少人数でも世代を超えて親睦を深めていることです。震災復興の事業も着々と進んでおり、今後も転勤でメンバーが少なくなっていくかと思いますが、細々と、でも頻繁に行事を行っていきたくて考えています。

「関東支部活動報告」

関東支部長 瀬戸口 喜祥（平成7年卒）

平成28年度になり、関東しらなみ会では、これまで長い間支部長を務めていただいた黒木敬司氏（昭和56年卒）から瀬戸口喜祥（平成7年卒）へ引き継がれ、新支部長をバックアップする事務局も刷新された。

そんな中、平成28年11月12日に鹿児島大学工学部関東合同同窓会が東京都品川区の三州倶楽部で開催され、新支部長をはじめとした関東しらなみ会事務局も同窓会開催に向けての準備に協力した。合同同窓会にはしらなみ会同窓で工学部同窓会会長でもある松永洋文氏、浅野俊之教授も来賓としてご参加いただいた。関東しらなみ会からは来賓を除いて22名が参加し、AOI会の27名に次ぐ参加者であった。合同同窓会は盛況の中で無事終了し、その後、しらなみ会だけの2次会も開かれ、2次会からの参加者も加わり、こちらも大盛況となった。会の終了後、来賓として参加された松永氏、浅野教授から大変良い時間を



過ごすことができましたとのことのお礼の御言葉を頂きました。

これからも、関東しらなみ会では、学会等で関東へお越しになる先生、学生、同窓生を歓迎するような会（飲み方）を開催し、若手の参加も促しつつ、同窓生同士の親睦を深めていきたいと思っています。

「関西支部活動報告」

関西支部長 大田 英司（平成7年卒）

<しらなみ会関西支部 交流会>

開催日時：2016年11月17日（水） 19：00～ 参加者：24名

第63回海岸工学講演会（11/16～18）が大阪大学で開催されるにあたり、交流会を開催しました。鹿児島大学からは、佐藤先生、浅野先生、長山先生（H16）、種田技術職員にご参加いただきました。さらに、石田 前関西支部長から海岸工学講演会が開催されること、鹿児島大学からも参加される先生がいらっしゃるなどの情報を頂き、慌てて支部会員に案内させていただいたところ、平日にも関わらず多数参加していただくことができ

ました。

また、関東支部からも瀬戸口支部長や黒木前支部長など数名に参加していただき、これからのしらなみ会の運営などについても、楽しい雰囲気でも話し合うことができました。

今回、交流会について案内したところ、転勤などにより連絡が取れなくなってしまっている方がいること、連絡はつくものの関西から離れていらっしゃるため参加できない方など、また、支部で把握できていない会員の移動もあり、今後支部間での連絡が重要であることや、若い会員の情報の収集については、大学の協力が不可欠であることも話し合うことができました。

懐かしい先生のお顔も拝見でき、しらなみ会の今後の運営課題についてもなごやかな雰囲気でも考えることができた、とても有意義な交流会でした。



<本年度 関西支部から他支部へ異動された方（支部確認済み）>

西村 学 氏（H7卒）（10月より関東支部へ）

緒方 信一 氏（H14卒）（10月より九州支部へ）

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範（平成7年卒）

●平成27年度

平成27年11月20日（金）に、福岡市中央区渡辺通にある「旬業食房 ぎょくちょう」にて、福岡支部の年1回の総会と懇親会を、約30数名の参加のもと開催いたしました。

平成27年卒の新メンバーや、水産学部の西隆一郎教授の参加も得て、例年同様、盛大に会が催されました。

●平成28年度

平成28年11月18日（金）に、定番の開催場所となっております「ぎょくちょう」にて、約30名弱の参加のもと、総会と懇親会を開催いたしました。

初参加や、数年ぶりに参加される方もおり、例年同様、活発な意見交換や近況の報告など、楽しく盛大に会が催されました。(写真からも楽しさが伝わってきますね！)

また、今回は、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・懇親会(H28.2.20)に、しらなみ会福岡支部として初めて参加したことを報告させていただきました。

引き続き、しらなみ会の更なる発展に寄与してまいりたいと思います。



他支部でも苦勞されていることと思いますが、転勤や異動もあり連絡先の更新や情報把握に苦勞しているなか、同期生同士の連絡繋がりなどで参加される方もあることから、皆様からの情報提供は非常に貴重でありますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

☆連絡先 橋本のメールアドレス
hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp

「新任教員挨拶」

助教 小池 賢太郎 (平成23年卒)



平成28年4月1日付で学術研究院理工学域工学系海洋土木工学専攻担当として着任致しました。出身地は神奈川県ですが、鹿児島大学への進学のために18歳で鹿児島に移住してから早10年が経過し、近頃では初見の方から鹿児島人と間違えられることもしばしば。さて、この10年を改めて振り返ると、大学卒業、博士前期課程、博士後期課程そして就職と人生の分岐点が数多く存在しました。そして、自

分の選択をいつも後押ししてくれたのが大学の先生方をはじめ、先輩、同輩、後輩であり、この経験は、私が大学教員を目指した要因のひとつでもあります。海洋土木工学専攻の助教として着任した今、教育面では世界で活躍できる土木技術者を育成するとともに、人生の岐路に立った学生の手助けができるよう精進してまいります。

また、研究面において、私はコンクリート工学を専門分野としており、現在はコンクリート構造物の塩害劣化に注目し、そのメカニズムの解明や塩害劣化による構造物の各種性能低下について研究を行っております。日本で塩害が社会問題となった1980年代から40年近く経過した現在においても、未だ根本的な解決に至っておりません。今後も、塩害をキーワードに多面的に研究へ取り組み、土木技術の発展、そして人々が安心して暮らせる街づくりへと繋げていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

鹿児島大学稲盛賞

(平成28年度)

平成28年度

[電気電子工学科]	頼田 家維
[海洋土木工学科]	花立 博志

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(平成28年度)

平成28年度

[機械工学科]	宮田 惇介	米倉 恵佑
[電気電子工学科]	一木 晃雅	の場 浩樹
[建築学科]	清藤 彩	宇都宮 尋史
[環境化学プロセス工学科]	廣森 優太	濱野 且智
[海洋土木工学科]	鴛海 英明	辻田 美帆
[情報生体システム工学科]	上園 翔平	川野 晃輔
[化学生命工学科]	林 昂史	橋口 海斗

累積学部長賞・成績優秀賞

(平成27年度)

平成27年度累積学部長賞

[機械工学科]	飯山 裕昇	内村 直人	林田 洸利紀
[電気電子工学科]	安部 耕平	井上 恭佑	甲斐峻大朗
[建築学科]	須永 達也	戸村 奈央	山崎 大樹
[環境化学プロセス工学科]	大迫 貴太	久米田 幸徳	金 剛山
	作本 祐一郎		

[海洋土木工学科]	宇都遼太郎	橋之口 剛	高 舒恒
[情報生体システム工学科]	川田 真人	芝 優希	中原 友希
	真部 祐太	森賀 正貴	
[化学生命工学科]	江頭 直成	大山 雄滝	鞭馬 奏萌

平成27年度累積成績優秀賞

[機械工学科]	小森 一樹	副島 隆弘	松原 光星
	丸野 航平	森 寛太	吉元翔太郎
	福原 太輔		
[電気電子工学科]	秋山祐一郎	坂元 浩太	濱野 皓志
	宮崎 貴将		
[建築学 科]	坂本 直哉	有留 麻衣	塚崎 克也
	本田 晃教	小御門真伍	
[環境化学プロセス工学科]	伊藤 拓哉	坂口 智広	大庵 亨輔
	寺地 晃佑	趙 媛媛	
[海洋土木工学科]	壹岐 圭太	井上 成哉	高浜 海斗
	西 健一	堀之内佑莉	松島 康太
[情報生体システム工学科]	石井 貴士	上川路洋介	貞方 浩徳
	傍田 啓介	寺崎可奈子	夏山 聡史
	根比 瞭	藤原 泰志	山中 大地
	米元紗耶子		
[化学生命工学科]	大久保綾子	小林 弘兎	迫間 美帆
	下村 恭子	平 実郷	塚田 舞
	前田 大輔	劉 佳昊	

岸園賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
- 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
- 3) その他前1) 2) 号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる者

*平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

平成27年度受賞者

○下茂 忍 (機械工学科 S34卒)

○鹿児島大学工学部同窓会大分県支部グループ

(大石喬 応用化学科 S37卒、和田正遠 建築学科 S25卒 三原久正
応用化学科 S28卒)

平成28年度受賞者

○三宅 征夫 (応用化学科 S43卒 応用化学工学専攻 S45修了)

三宅征夫氏は鹿児島大学工学部応用化学科に文部教官助手として約2年間奉職された後、昭和47年1月に文部省国立教育研究所に採用され、定年までの37年3ヶ月間勤務された。これは同研究所の勤務最長記録であり、その長年の研究実績を評価され、国立教育研究所の「名誉所員」の称号を授与されている。特に国際数学・理科教育調査研究部門で業績を上げられ、また「学習指導要領：理科」の作成に従事し、更に「集団に準拠した評価（相対評価）」から「目的に準拠した評価（絶対評価）」に代わることになった時の中心的な役割を果たされた。「日本科学教育学会」からは「学術賞」を贈呈され、さらにその「名誉会員」となられた。

これらが工学部の名を高めたものとして評価された。

平成29年3月卒業及び修了生進路

機械工学科・機械工学専攻

【平成29年】

インフラテック(株)
 (株)サムソン
 日立工機(株)
 日東紡(株)
 パナソニック(株)
 トヨタ自動車九州(株)
 ダイキン工業(株)
 新明和工業(株)
 国土交通省九州地方整備局
 東京エレクトロン(株)
 アイシン・エイ・ダブリュ(株)
 宮崎県都城市役所
 ソニーセミコンダクタ(株)
 パナソニックエコシステムズ(株)
 九州電力(株)
 本田技研工業(株)
 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
 三菱電機(株)
 国土交通省航空局
 ヤマハ発動機(株)
 富士電機(株)
 日立造船(株)
 NOK(株)
 三浦工業(株)
 新日鐵住金(株)
 トヨタ自動車九州(株)
 日清紡ホールディングス(株)
 ダイハツ工業(株)
 三菱電機エンジニアリング(株)
 日之出紙器工業(株)
 日本ガス(株)
 住友大阪セメント(株)
 三浦工業(株)
 日本製紙(株)
 ヤンマー建機(株)
 竹田設計工業(株)
 (株)I H I
 (株)日本製鋼所
 (株)マルマエ
 京セラ(株)

アイシン精機(株)
 平田機工(株)
 T H K(株)
 (株)鷲宮製作所
 ヤマザキマザック(株)
 ファナック(株)
 (株)麗タレントプロモーション
 (株)J A C リクルートメント
 佐世保重工(株)
 宮崎市役所
 富山県教員
 トヨタプロジェクトエンジニアリング(株)
 キヤノンマーケティングジャパン(株)
 J R 西日本(株)
 宮崎県西都市役所
 アステック入江(株)
 三菱自動車工業(株)
 川崎重工業(株)
 M H P S エンジニアリング(株)
 トタニ技研工業(株)
 (有)三浦工業
 (株)矢野特殊自動車
 (株)日立パワーソリューションズ
 トーテックアメニティ(株)
 (株)村田製作所
 (株)キセキ九州
 スミメックエンジニアリング(株)
 日本ガス(株)
 J A 鹿児島県連
 鹿児島県始良市役所
 日鉄住金テックエンジ(株)
 日本製紙(株)
 (株)カプコン
 第一精工(株)
 宮崎銀行
 日本総合住生活(株)
 (株)アソウ・アルファ
 さつま酸素工業(株)
 九州タブチ(株)
 (株)牧野フライス製作所
 (株)三五
 日中ツアー(株)
 (株)トラスト・テック

(株)T C J
 林テレンプ(株)
 (株)エーアンドエーマテリアル
 A N A エアポートサービス(株)
 富士通テンテクノロジー(株)
 アロン電機(株)
 (株)ネオキャリア
 鹿児島大学大学院
 九州大学大学院
 北陸先端科学技術大学院大学

電気電子工学科

【平成29年】

アイコム(株)
 (株)A・R・P
 MBC開発(株)
 (株)オービック
 (株)九電工
 (株)九電ハイテック
 京セラコミュニケーションシステム(株)
 (株)きんでん
 サツマ酸素工業(株)
 (株)シティアスコム
 セイカ食品(株)
 (株)ソフト流通センター
 ダイキン工業(株)
 (株)テレビ長崎
 凸版印刷(株)
 (株)名村造船所
 日本システム(株)
 (株)日本テクシード
 ピクオス(株) (2名)
 山九(株)
 ヤマハ発動機(株)
 ルネサス エレクトロニクス(株)
 霧島市役所
 九州経済産業局
 鹿児島大学大学院 (38名)

電気電子工学専攻

【平成29年】

アイシン・エイ・ダブリュ(株)
旭化成(株)
池上通信機(株)
いすゞ自動車(株)
NECエンジニアリング(株)
NOK(株)
王子マテリア(株)
九州電力(株) (2名)
(株)九電工
京セラ(株) (7名)
シーアイ化成(株)
(株)シマノ
(株)ジャパンディスプレイ
住友電気工業(株)
ソーラーフロンティア(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
ダイキン工業(株)
ダイハツ工業(株)
東ソー(株)
トヨタ自動車九州(株)
(株)トヨタ車体研究所
日新電機(株)
日本軽金属(株)
日本プロセス(株)
パナソニック(株) (2名)
(株)日立製作所
(株)富士通九州システムサービス (2名)
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
富士電機(株) (2名)
本田技研工業(株)
三井造船(株)
(株)三井三池製作所
三菱電機(株) (3名)
三菱電機ビルテクノサービス(株)
ルネサス システムデザイン(株)
ルネサス セミコンダクタ パッケージ&テスト ソリューションズ(株)
鹿児島大学大学院博士後期課程

建築学科

【平成29年】

(株)竹中工務店
MBC開発(株)

野村建設工業(株)
清水建設(株)
東急建設(株)
大成建設(株) (2名)
高砂熱学工業(株) (2名)
大和ハウス工業 (3名)
(株)銭高組 (3名)
(株)東条設計
(株)一条工務店
YKKAP(株)
東急建設(株)
(株)大林組
(株)谷川建設
西部ガス興商(株)
(株)傳設計
(株)LIXIL
宮内庁京都事務所
防衛省地方防衛局
鹿児島市役所
鹿児島県庁 (2名)
佐世保市役所
九州大学大学院
鹿児島大学大学院 (26名)

建築学専攻

【平成29年】

(株)梓設計
前田建設工業(株)
鹿島建設(株)
(株)日建設計
(株)丹青社
(株)フジタ
(株)竹中工務店
(株)RIA
大和ハウス工業 (2名)
(株)ベツダイ
(株)旭化成ホームズ
(株)ベガハウス
(株)スペース
(株)内藤建築事務所
(株)安井建築設計事務所
(株)NTTファシリティーズ九州 (2名)
国土交通省 九州地方整備局
(株)新日本技術コンサルタント
山口県庁

(株)南日本放送

環境化学プロセス工学科

【平成29年】

大分ガス
熊本乳業
ソニーセミコンダクタ マニュファクチャリング
千代田工商
トヨタ車体研究所
ニイタカ
日阪製作所
鹿児島大学大学院理工学研究科

海洋土木工学

【平成29年】

(株)奥村組
五洋建設(株)
大福コンサルタント(株)
東洋建設(株)
飛鳥建設(株)
(株)ナカボーテック
南生建設(株)
西日本土木(株)
(株)花立工務店
(株)富士設計
(株)不動テトラ
ユーコーラッキーグループ
(株)渡辺組
防衛省地方防衛局
国土交通省九州地方整備局
鹿児島県
東京都特別区
宮崎県
竹田市
横浜市
大口明光学園中学校・高等学校
鹿児島大学大学院

海洋土木工学専攻

【平成29年】

オリエンタル白石(株)
住友大阪セメント(株)
(株)東京久栄

東洋建設(株)

情報生体システム工学科

【平成29年】

SCSKニアショアシステムズ(株)
アイ・ティー・エス・ジャパン(株)
デンソーテクノ(株)
(株)メイテック
セントラルソフト(株)
安川情報システム(株)
(株)ISTソフトウェア
(株)アピリッツ
(株)インフォセンス
(株)ケーブルメディアワイワイ
(株)タカギ
(株)レオ克蘭
(株)ワールドインテック
(株)安川ロジステック
(株)マリンテック
就労継続支援A型事業所あいあい
西部ガス(株)
長州産業(株)
日本情報通信(株)
日本郵政(株)
富士通(株)
(株)富士通九州システムサービス
宮崎県信用農業協同組合連合会(JA宮崎信連)
全国共済農業協同組合連合会熊本本部
全国労働者共済生活協同組合連合会
鹿児島県(2名)
長崎県諫早市
九州大学大学院(2名)
鹿児島大学大学院(43名)

情報生体システム工学専攻

【平成29年】

NECソリューションイノベータ(株)
NTTソフトウェア(株)
(株)NTTデータMSE
アイ・ティー・エス・ジャパン(株)
セントラルソフト(株)(2名)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)(2名)
ソニーセミコンダクタ(株)
ソフトマックス(株)

デンソーテクノ(株)
ドコモ・テクノロジー(株)
バナソニック(株)
ピクオス(株)(2名)
フリービット(株)
ヤフー(株)
リコーITソリューションズ(株)(2名)
ルネサスエレクトロニクス(株)(2名)
(株)アウトソーシングテクノロジー
(株)エヌアイディ
(株)デイブレイク
三菱コントロールソフトウェア(株)
三菱ビルテクノサービス(株)
三菱自動車工業(株)
三菱電機(株)(3名)
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)(3名)
双日(株)
(株)村田製作所
凸版印刷(株)(2名)
(株)南日本情報処理センター
日本アドバンス・テクノロジー(株)
日本写真印刷(株)
富士通エフ・アイ・ピー(株)
(株)富士通鹿児島インフォネット
富士電機(株)(2名)

化学生命工学科

【平成29年】

天草市職員
旭化成
えがお
大平製麺
鹿児島県薬剤師会試験センター
ガスバル九州
京セラ
コアガス
再春館製薬所
サツマ化工
ソフネット
ダイキン工業
大正富山医薬品
ダイハツ工業
タイヨー
ニプロ
三好不動産

宮崎県職員

Basic

鹿児島大学大学院理工学研究科
大阪大学大学院
九州大学大学院生物資源環境科学府

化学生命・化学工学専攻

【平成29年】

アキレス
池田糖化工業
栄研化学
大分キャンノンマテリアル
大阪富士工業
オカモト
化研テック
京セラ
栗田工業
広栄化学工業
山九
新日鉄住金化学
鈴与シンワート
住友化学
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
東洋紡
凸版印刷
ダイキン工業
テクノプロ・R&D
ニチアス
ニチゾウテック
日産化学工業
日本触媒
ビオフェルミン製薬
不動技研工業
宮崎富士通コンポーネント
明治ホールディングス
メイテック
メディサイエンスプランニング
KSK
WDBエウレカ
YEJガラス
鹿児島大学大学院理工学研究科

同窓会役員名簿および部会

平成29年1月現在

顧問	渡邊 睦 (工学部長)
会長	松永 洋文 (海土52)
副会長	5部会会長 (次頁)
庶務幹事	曾我 和弘 (建築H6)
会計幹事	福原 稔 (機械56)
編集幹事	木村 至伸 (海土H10)
監事	山本 吉朗 (電気62)
	伊藤 博雅 (応化44)

【評議員】

◆機友会 (機械工学科・機械工学第二学科)

浜崎 和則 (39)	米倉 真一 (40)
皮籠石 紀雄 (45)	福原 稔 (56)
迫 義人 (56)	大重 俊則 (60)
谷村 和彦 (63)	江口 之浩 (H1)
上谷 俊平 (特別会員)	余 永 (特別会員)

◆南窓舎密会 (応用化学科・化学工学科・応用化学工学科・生体工学科 (生体機能材料工学コース)・環境化学プロセス工学科・化学生命工学科)

鎌田 薩男 (34)	染川 賢一 (39)
下茂 徹朗 (46)	大竹 孝明 (52)
吉留 俊史 (60)	安藤 浩毅 (H2)
伊藤 博雅 (44)	中島 常憲 (H6)
小幡 透 (H7)	有水 伸一 (H7)

◆錦水会 (電気工学科・電子工学科・電気電子工学科・情報工学科・生体工学科 (生体電子工学コース)・情報生体システム工学科)

永野 博 (46)	権藤 正信 (52)
野崎 公憲 (48)	小田 博昭 (47)
吉留 進 (47)	白石 巖 (51)
池田 浩二 (51)	測田 孝康 (63)
川越 明史 (H9)	重井 徳貴 (H4)

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科・海洋土木工学科)

武若 耕司 (52)	萩 亮 (52)
北崎 義隆 (53)	新屋 隆浩 (58)
山城 徹 (55)	三隅 浩二 (57)
濱田 成敏 (61)	山中 浩平 (H2)
木佐貫 浄治 (H2)	木村 至伸 (H10)

◆AOI会 (建築学科)

末吉 重栄 (44)	揚村 固 (48)
下山 道男 (55)	宮城 泰児 (58)
渡島 秀夫 (H2)	肥後 潮一郎 (H4)
日野 真琴 (H7)	川畑 忠行 (H8)
峰元 信明 (H13)	

工学部同窓会事務局

窪田 玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会 長 高 崎 征 忠 (39)
 副 会 長 皮籠石 紀 雄 (45)
 庶 務 幹 事 福 原 稔 (56)
 会 計 幹 事 上 谷 俊 平 (特別会員)
 会 計 幹 事 中 尾 光 博 (特別会員)
 会 計 副 幹 事 中 田 淵 大 (特別会員)
 編 集 幹 事 田 余 永 (特別会員)
 編 集 副 幹 事 定 松 直 (特別会員)
 監 事 大 脇 研 二 (44)
 監 事 大 吉 滿 正 美 (53)
 関 東 支 部 長 内 齋 藤 和 幸 (47)
 中 京 支 部 長 齋 篠 崎 信 一 郎 (44)
 関 西 支 部 長 田 和 政 行 (50)
 福 岡 支 部 長

◆錦水会

会 長 葉 山 勝 年 (41)
 副 会 長 永 野 博 昭 (46)
 副 会 長 小 田 博 (47)
 庶 務 幹 事 白 石 巖 (51)
 会 計 幹 事 曲 田 畜 二 (46)
 編 集 幹 事 池 田 浩 二 (51)
 監 事 濱 田 信 之 (41)
 監 事 原 口 俊 幸 (53)
 学 内 庶 務 幹 事 渕 田 孝 康 (63)
 学 内 会 計 幹 事 川 越 明 史 (H 9)
 学 内 編 集 幹 事 重 井 德 貴 (H 4)
 関 東 支 部 長 萩 原 健 人 (41)
 関 西 支 部 長 白 濱 和 人 (58)
 東 海 支 部 長 永 野 博 (46)
 福 岡 支 部 長 権 藤 正 信 (52)
 熊 本 支 部 長 小 田 博 昭 (47)
 宮 崎 支 部 長 野 崎 公 憲 (48)
 鹿 児 島 支 部 長 吉 留 進 (47)

◆AOI会

会 長 武 田 敏 郎 (42)
 副 会 長 德 富 久 郎 (42)
 顧 問 久 川 国 幹 (23)
 顧 問 川 上 道 夫 (34)
 庶 務 幹 事 塩 屋 晋 一 (57)
 会 計 幹 事 二 宮 秀 與 (59)
 編 集 幹 事 増 留 麻 紀 子 (H11)
 監 事 守 真 和 弘 (41)
 監 事 揚 村 固 樹 (48)
 関 東 支 部 長 塘 直 樹 (41)
 関 西 支 部 長 瀬 山 憲 正 (47)

北九州支部長 守 道 明 (42)
 大分支部長 和 田 正 遠 (25)
 宮崎支部長 安 部 洋 人 (46)

◆南窓舎密会

会 長 染 川 賢 一 (39)
 副 会 長 安 藤 浩 毅 (H 2)
 監 事 田 中 口 周 博 (44)
 監 事 橋 下 茂 平 (H 6)
 代 表 幹 事 吉 留 徹 朗 (46)
 庶 務 幹 事 小 幡 史 (60)
 庶 務 幹 事 有 水 伸 一 (H 7)
 庶 務 幹 事 下 之 園 太 郎 (H15)
 会 計 幹 事 大 竹 明 (52)
 会 計 幹 事 満 塩 勝 (H 6)
 会 計 幹 事 橋 口 周 平 (H 6)
 編 集 幹 事 山 本 高 師 (53)
 編 集 幹 事 中 島 常 憲 (H 6)
 編 集 幹 事 山 元 和 哉 (H 8)
 教 官 評 議 員 甲 斐 敬 美 (43)
 関 東 支 部 長 三 宅 征 夫 (43)
 東 海 支 部 長 種 子 田 実 郎 (41)
 関 西 支 部 長 福 里 隆 一 (46)
 北 部 九 州 支 部 長 黒 田 真 也 (41)

◆しらなみ会

会 長 萩 屋 亮 (52)
 副 会 長 新 隆 浩 (58)
 庶 務 幹 事 木 佐 貫 淨 治 (H 2)
 庶 務 幹 事 (学内) 山 城 徹 (55)
 会 計 幹 事 濱 田 成 敏 (61)
 会 計 幹 事 (学内) 三 隅 浩 二 (57)
 編 集 幹 事 山 中 浩 平 (H 2)
 編 集 幹 事 (学内) 小 池 賢 太 郎 (H23)
 監 事 北 崎 義 隆 (53)
 東 北 支 部 長 山 田 滿 秀 (H 7)
 関 東 支 部 長 瀬 戸 口 喜 祥 (H 7)
 関 西 支 部 長 大 田 英 司 (H 7)
 福 岡 支 部 長 橋 本 康 範 (H 7)

◆工学部同窓会大分支部

支 部 長 大 石 喬 (応化37)
 副 支 部 長 福 田 公 則 (電気38)
 副 支 部 長 清 田 善 之 (建築46)
 幹 事 長 渡 辺 高 行 (機械49)

本部 だより

平成28年度 拡大幹事会議事録

日時：平成28年8月19日(金)

17:00~18:35

場所：ジェイドガーデンパレス

出席者：

本部 松永洋文会長、曾我和弘庶務幹事、福原稔会計幹事(兼機友会庶務幹事)、木村至伸編集幹事、山本吉朗会計監事、伊藤博雅会計監事

機友会 高崎征忠会長、福原稔庶務幹事、浜崎和則評議員、皮籠石紀雄評議員

錦水会 葉山勝年会長、淵田孝康庶務幹事、川越明史会計幹事、重井徳貴編集幹事

A O I 会 武田敏郎会長、塩屋晋一庶務幹事、二宮秀與会計幹事、増留麻紀子編集幹事

南窓舎密会 吉留俊史庶務幹事、満塩勝会計幹事、中島常憲編集幹事、山元和哉編集幹事

しらなみ会 新屋隆浩副会長、木佐貫浄治庶務幹事、山城徹庶務幹事、三隅浩二会計幹事、山中浩平編集幹事、小池賢太郎編集幹事、武若耕司評議員、審良善和様

事務員窪田玲子 計30名

1. 会長あいさつ

○松永洋文同窓会会長よりあいさつ

2. 平成27年度同窓会運営報告

1) 平成27年度行事および会議報告

○曾我庶務幹事より主だった内容の説明、報告がなされた。

○昨年度の司会には故岸園司元同窓会会長の奥様、岸園敏子様にご臨席を賜り、同窓会から寄附に対するお礼を込めて感謝状を贈呈した。

○工学部創立75周年記念事業についての

事前打ち合わせ会が10月以降に執り行われた。

2) 平成27年度本部会計決算報告

○福原会計幹事より一般会計の歳入、歳出の説明がなされた。岩崎基金は支出がない。岸園基金は2名の受賞者への副賞と司会の費用での支出があった。

3) 会計監査報告

○伊藤博雅学外会計監事より平成28年6月10日の会計監査の結果、帳簿、領収証など適正に処理されていた旨の報告がなされた。

1) ~ 3) までの質問事項はなく承認された。

4) 同窓会名簿第15号第3版発行報告

○木村編集幹事より発行部数、発行費についての報告がなされた。修了生への配布は他大学からの入学生に配布している。また、異動連絡としてはがきを名簿に挟んでいる。はがきの保護シール不足分を今回準備した。

○名簿閲覧に関する注意事項の説明がなされた。

5) 会報南桜風14号の発行報告

○製本数、学内配布、返送数の詳細の説明がなされた。返送数はオープンキャンパスにて配布した。

○製本は濱島印刷、発送に関してはサラトに依頼した総額の経費の説明がなされた。

4) ~ 5) について質問事項なし。

3. 平成28年度同窓会運営計画

1) 平成28年度同窓会行事および会議報告

○曾我庶務幹事より本年度の概要の説明がなされた。概ね例年通りの行事を執り行う。

○同窓会連合会から打診を受けている進取の精神支援基金に関する工学部同窓会としての対応を話し合うために、臨時の会合を開催する計画である。

○11月に3年毎開催の関東合同同窓会が開催される。部会への出席者の依頼が

- 各支部からある。
- 大分県支部総会については参加人数を含めて拡大幹事会の資料中にも記録を残すようにする。
 - 2) 平成28年度本部会計予算案
 - 歳入、歳出案の説明がなされた。歳入には今年度限りの雑費の入金がある予定。歳出では工学部75周年記念事業関係での計上がある。岩崎基金の支出計画はない。岸園基金は今年度より各分会からの推薦者を認める報告で5部会分の予算を計上している。前年度の岸園賞受賞者へは旅費補助金を予算として計上することとなった。
 - 2) についての質問事項はなし
 - 3) 会費納入状況および本部・部会への配分額
 - 今年度の会費納入状況の説明がなされた。納入率は現在約80%である。
 - 前期割当金の部会への配分額の説明がなされた。
 - 参考として記載されている振込での金額は7,320,000円に訂正する。
 - 質問：武田会長) 機友会が納入率100%であるが工夫されていることは？
回答：福原幹事) 学生に対しての説明と教育支援として還元できるような活動を行うようにしている。
 - 納入率を上げる手立てとして、昨年度トライアルで機友会の会費未納者へ向けて2月に督促状を送付したところ15%の実績があったことを踏まえ、今年度は全ての部会で実施する計画である。
その結果いかんでは、来年度の年度計画に取り込む予定である。
 - 3) についての異議なしとして承認される。
 - 4) 同窓会名簿第15号第4版発行計画
 - 印刷業者は(株)サラトへ依頼。発行部数は卒業生と他大学から入学の学生数とする。予算額の説明、今後の流れの説明がなされた。
 - 5) 会報南桜風No.15号発行計画
 - 印刷業者、発行部数、予算額についての説明がなされた。不明者調査も引き続き行う。広告も今まで実績のある会社に依頼する。これからの流れの説明がなされた。
 - 4) ~ 5) についての質問事項なし
 - 6) 学生諸活動助成金
 - 1学科につき3万円の助成を行う。昨年度の実績の報告がなされた。
 - 申請の際は庶務幹事の押印が必要。報告書には写真を添える。
 - 7) 工学部諸活動支援金
 - 岸園基金を活用し工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動を支援する目的で今年度からの応募を募る提案が曾我庶務幹事よりなされ、目的、支援対象、金額についての説明がなされた。
 - 企画事業内容は学科や部会の枠を超えて参加希望者を募るよう依頼がなされた。
 - 今年度は平成28年9月から平成29年3月までの期間とする。
 - 申込書の承認は実務的な面があるので庶務幹事と表記している。部会長の承認でも可
 - 8) 関東合同同窓会
 - 11月12日に開催される。各分会支部から案内が入る計画。各分会の資料を庶務幹事に依頼する。
 - 4. 各分会行事報告と計画
 - 機友会：福原稔庶務幹事、錦水会：淵田孝康庶務幹事、AOI会：塩屋晋一庶務幹事、南窓舎密会：吉留俊史庶務幹事、しらなみ会：木佐貫浄治庶務幹事よりそれぞれの部会の平成27年度、平成28年度の行事、会議の報告がなされた。
 - 5. 岸園賞 別紙資料有
 - 1) 被推薦者の推薦
 - 南窓舎密会からの推薦：三原征夫氏の

推薦理由の説明がなされた。

2) 選考

○満場一致にて受賞が決定された。*後日本部より三宅氏に受賞の連絡済

3) 岸園賞申し合わせ事項の改正について

○5項目の実態に即した改正案が示され、いずれも承認された。

*岸園賞の受賞者には機会があれば岸園賞を告知していただき、周知を図っていくものとする。

6. その他

1) 工学部75周年記念事業に向けて

○武若耕司先生(75周年記念事業実行委員長)より、協力の要請がなされた。

2) 同窓会役員名簿

○変更があれば随時事務局に連絡してもらう。

3) メールアドレスの変更

○学外のサーバーを借りる。HPも変更となることの報告がなされた。

4) 臨時会合について

○進取の精神支援基金についての会議を執り行う計画である。

以上

部運営関連経費(1,243,120円)がありました。そのほかには、会報14号の発行費(2,294,259円)、平成27年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿(15号第3版)の発行費(591,224円)、役員会・評議会等運営費(102,861円)、同窓会連合会分担金(100,000円)、本部役員出張費(60,000円)、大分県支部総会補助費(46,000円)、同窓会本部部屋の借り受け金と工学部事務助成費(197,760円)、学生の諸活動助成費(176,245円)、諸活動支援金等の予備費(432,266円)がありました。歳出の合計金額は9,873,735円でした。この結果、歳入から歳出を差し引いた9,571,108円を次年度へ繰り越すことになりました。

岩崎基金については、支出はなく、15,878,422円を次年度へ繰り越すことになりました。

岸園基金については、岸園司元工学部同窓会会長奥様の岸園敏子様から20,000,000円のご寄付があり、歳入の合計金額は29,472,272円となりました。支出としては、岸園賞記念品代(100,000円)、司会の開催費用(157,814円)があり、29,214,458円を次年度へ繰り越すことになりました。

平成27年度会計報告

会計幹事 福原 稔(機械昭和56年卒)

平成27年度から本部会計幹事を担当させていただきます。宜しくお願い申し上げます。同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金(9,929,296円)と学部の新入生、編入学生等が入学時に納入する同窓会終身会費(20,000円/人×470人=9,400,000円)です。これらの収入に会報広告代、預貯金利子を合わせて、歳入の合計金額は19,444,843円となりました。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い(4,630,000円)、本

鹿児島大学同窓会連合会だより

4月9日(土)に城山観光ホテルにて毎年恒例の総会、懇親会が開催された。総会では平成27年度の活動報告、会計報告がなされ満場一致で承認された。引き続き開催された懇親会では懐かしい顔ぶれと共に和やかな時間が流れ、最後は円陣を組んでの北辰斜めとなり盛会裏のうちに閉会を迎えた。毎年恒例の会となっているが同窓生の絆を感じられる会となった。

平成27年度一般会計決算

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

歳入総額	19,444,843
歳出総額	9,873,735
差引残高	9,571,108
通帳①: 郵貯通常貯金	4,034,140
通帳②: 郵貯定額貯金	5,074,705
現金	462,263
合計	9,571,108

(歳入)

項 目	H27予算額	H27決算額	差額(注2)	H27決算の備考
前年度繰越金	9,929,296	9,929,296		(注1)
本年度入学者納付金	9,280,000	8,020,000	-1,260,000	401名×2万
本年度外国人入学者納付金	20,000	20,000	0	1名×2万
本年度編入学者納付金	340,000	340,000	0	17名×2万
本年度博士課程入学者納付金	80,000	80,000	0	4名×2万
以前の入学者納付金	40,000	880,000	840,000	44名×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	0	60,000	60,000	3名×2万
小計	19,689,296	19,329,296	-360,000	
会報14号広告代	50,000	100,000	50,000	3社
預貯金利子	11,000	15,547	4,547	郵貯:通常1,019円、定額14,528円
合計	19,750,296	19,444,843	-305,453	

(注1) H27予算額の前年度繰越金9,929,296円=(H26歳入額)20,121,007円-(H26歳出額)10,191,711円

(歳出)

項 目	H27予算額	H27決算額	差額(注2)	H27決算の備考
(各部会割当金)				
機友会	1,040,000	1,420,000	380,000	92/95、外1、編4、前24
錦水会	1,820,000	1,730,000	-90,000	154/168、編12、博2、前外1、前9
AOI会	630,000	440,000	-190,000	48/62、博1、前外1、前4
南窓舎密会	930,000	580,000	-350,000	70/91、編1、博1、前外1、前3
しらなみ会	480,000	340,000	-140,000	37/48、前4
南翔会	0	0	0	
未納学生の退学・除籍の部会への返金	120,000	120,000	0	機2、錦1、AOI 3、南窓3、しらなみ3
小計	5,020,000	4,630,000	-390,000	
(本部運営関連)				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	1,020,000	959,651	-60,349	
通信費	50,000	31,582	-18,418	
事務費	200,000	91,887	-108,113	通帳手数料含む
小計	1,430,000	1,243,120	-186,880	
同窓会総会・懇親会費				
旅費補助				
小計				
会報14号発行費	2,300,000	2,294,259	-5,741	製本、発送代、不明者調査
追録名簿(15号第3版)発行費	680,000	591,224	-88,776	H27年度卒業・修了生
役員会・評議会等運営費	150,000	102,861	-47,139	同窓会連合会懇親会費含む
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
本部役員出張旅費	200,000	60,000	-140,000	大分県支部総会参加
大分県支部総会補助金	46,000	46,000	0	2,000円/人
不動産借り受け金	77,760	77,760	0	部屋代
工学部事務助成費	120,000	120,000	0	助成費
学生諸活動助成費	225,000	176,245	-48,755	各学科諸活動、工学部体育祭
小計	3,898,760	3,568,349	-330,411	
慶弔費	100,000	0	-100,000	
予備費:司会 旅費補助等	230,000	213,816	-16,184	2名旅費、記念品代等
予備費:事務員給料追加分	162,450	162,450	0	事務員H22年度～H27年4月迄
予備費	8,909,086	56,000	-8,853,086	諸活動支援金
小計	9,401,536	432,266	-8,969,270	
合計	19,750,296	9,873,735	-9,876,561	

(注2) 差額はH27決算額-H27予算額

平成27年度の歳入決算額19,444,843円-平成27年度の歳出決算額9,873,735円=9,571,108円を平成28年度へ繰り越す。

平成27年度岩崎基金決算
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

歳入総額	15,878,422
歳出総額	0
差引残高	15,878,422

通帳① UFJ定期預金	10,000,000
通帳② UFJ普通預金	301,083
通帳③ みずほ定期預金	5,577,339
合計	15,878,422

(歳入)

項目	H27予算額	H27決算額
前年度繰越金	15,875,184	15,875,184
UFJ定期預金利息	0	3,188
UFJ普通預金利息	0	50
みずほ定期預金利息	0	0
合計	15,875,184	15,878,422

(歳出)

項目	H27予算額	H27決算額
合計	0	0

平成27年度の歳入決算額15,878,422円-平成27年度の歳出決算額0円＝15,878,422円を平成28年度へ繰り越す。

平成27年度岸園基金決算
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

歳入総額	29,472,272
歳出総額	257,814
差引残高	29,214,458

通帳①鹿銀普通預金	4,213,461
通帳②鹿銀定期預金	25,000,997
合計	29,214,458

(歳入)

項目	H27予算額	H27決算額
前年度繰越金	9,467,955	9,467,955
寄付金	20,000,000	20,000,000
鹿銀普通預金利息	0	3,320
鹿銀定期預金利息	0	997
合計	29,467,955	29,472,272

(歳出)

項目	H27予算額	H27決算額
岸園賞	100,000	100,000
司(つかさ)会 補助金	200,000	157,814
合計	300,000	257,814

平成27年度の歳入決算額29,472,272円-平成27年度の歳出決算額257,814円＝29,214,458円を平成28年度へ繰り越す。

つかさかい 司会の報告

本年度で第5回目を迎える^{つかさかい}司会が8月19日に開催されました。今回の参加者は60名と年々多くの皆様方にご参加をいただきました。また今年は学生会員の参加もあり、交流の幅が広がりを見せています。会では同窓会会長のあいさつの後、昨年度の岸園賞受賞者の下茂忍氏と大分県支部グループ代表の大石喬氏よりご講演を賜りました。下茂忍氏からは工学部の歴史を踏まえ関西における活動に関してのご講話、大石氏からは大分県支部の発足にまつわる貴重なお話をそれぞれ賜り、出席者からはよき薫陶を受ける貴重な機会であったとの声が聞かれました。渡邊陸工学部長による乾杯のご発声の後、引き続き懇親会となり、まさしく学科の枠を超えての交流が持たれた時間となり盛会裏のうちに終わりました。



平成28年度 鹿兒島大学工学部 同窓会 第5回 司会 平成28年8月19日 於：ジェイドガーデンパレス

* ^{つかさかい}司会の開催主旨

平成21年4月に故岸園 ^{きしぞのつかさ}司元同窓会会長のご家族よりご寄付いただいたうちの250万円を原資にし、以下の目的を持って執り行う

- 同窓生の交流を深める
- 教員同士のコミュニケーションを図る
- 南九州を中心にした産学官の連携を推進する

例年拡大幹事に引き続き実施しています。

特別寄稿

鹿児島大学工学部設立七十五周年に向けて

鹿児島大学学術研究院工学系 教授
理工学研究科副研究科長
兼、工学部長補佐（同窓会担当）
（昭和52年海洋土木開発工学科卒）
武若 耕司

鹿児島大学工学部は、第2次世界大戦終戦間際の1945年4月に設立された鹿児島県立工業専門学校をその礎とし、さらに、戦後の混乱期の廃校の危機を乗り越えて1949年4月に鹿児島県立大学工学部として新たに船出し、その後、1955年に県から国に移管されて鹿児島大学工学部となって、現在に至っています。この間の組織の体制については、県立工業専門学校当時の機械学科、電気学科、建築学科、および化学工業科の4学科（学生定員全学科併せて100名（各学科25名））で出発しましたが、今日の工学部（平成29年度1月）は、機械工学科、電気電子工学科、建築学科、環境化学プロセス工学科、海洋土木工学科、情報生体プロセス工学科、化学生命工学科の7学科となっており、学部学生数は2000名を超え、鹿児島大学の中でも最大の学生数を有する学部となっています。

また、1971年には大学院工学研究科修士課程が、機械工学専攻、機械工学第二専攻、電気工学専攻、建築学専攻、応用化学専攻、化学工学専攻の6専攻で設置認可され、各専攻定員8名でスタートし、その後、海洋土木開発工学専攻、情報工学専攻が加わりました。1994年の大学院工学研究科博士後期課程（所謂、博士課程）の設置に伴い、修士課程の名称も大学院工学研究科博士前期課程と名称を変更しました。なお、この時の博士後期課程には、物質生産工学専攻（定員8名）とシステム情報工学専攻（定員6名）の2専攻が設置されています。

現在の大学院は、工学と理学が統合した理工学研究科に名称変更され、その中の工学系分野として、博士前期課程（旧修士課程）の中に機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、海洋土木工学専攻、情報生体システム工学専攻、および、化学生命・化学工学専攻の6専攻が設置されています、博士後期課程（旧博士課程）についても、2015年に、工学と理学が統合した総合理工学専攻の1専攻に集約されて、現在に至っています。

以上のようにして発展していった鹿児島大学工学部並びに同大学院工学研究科の教育・研究は、工業立国である我が国の産業の発展に大きく寄与する極めて重要な役割を果たすと期待され、事実、本工学部からこれまでに、（株）京セラ創業者で、（公財）稲盛財団理

事長の稲盛和夫氏をはじめとする多くの優れた人材を世に送り出しています。

以上のような鹿児島大学工学部の歩んできた歴史と、これに併せて、これまで工学部が同窓会の支援を受けて取り組んできた主要な事業（予定を含む）も含めて示したものが、表1です。

表1 鹿児島大学工学部ならびに同窓会に関連する事柄

年・月	鹿児島大学工学部並びに同窓会の関連行事等
1945年(昭和20年)4月	県立工業専門学校設立
1949年(昭和24年)4月	県立鹿児島大学工学部設立
1955年(昭和30年)7月	国立鹿児島大学工学部に移管
1971年(昭和46年)4月	大学院工学研究科修士課程の設置
1978年(昭和53年)4月	創立30周年記念事業実施委員会設置
1979年(昭和54年)11月17日	30周年記念式典(県立鹿児島大学工学部設置から?)
1990年(平成2年)	「工学部同窓会を考える会」が発足 ・50周年記念の活動内容の方針を決定
1991年(平成3年)2月	工学部同窓会評議会で上記案を正式に決議し、工学部に上程(記念会館設置と研究助成のための基金創設)。
1991年(平成3年)4月	工学部会館(仮称)設立検討委員会を工学部で設置
1992年(平成4年)12月	工学部定例教授会で工学部創立50周年記念事業委員会設置承認
1994年(平成6年)4月	大学院工学研究科修士課程を同研究科博士前期課程と名称変更し、また、新たに同博士後期課程を設置
1995年(平成7年)4月22日	50周年記念式典(県立工業専門学校設置から)
2017年(平成29年)10月頃までに	「工学部75周年事業を考える会(仮称)」を工学部同窓会の中に設置(予定)
2018年(平成30年)6~8月頃	「工学部創立75周年記念事業委員会」設置(予定)
2020年(平成32年)10月	75周年記念式典(県立工業専門学校設置から)予定

そして、この中で特に工学部同窓会員の皆様に積極的に支援して頂いた事業が、1979年に実施された30周年記念式典(県立鹿児島大学工学部設立から起算)ならびに、1995年に行われた50周年記念式典(鹿児島工業専門学校設立から起算)です。

これらの記念事業の実施にあたって、工学部から、同窓会に対して事業への参加と支援をお願いした理由は、1つには、世代を超えた同窓生や教員の方々との親睦を図り、その絆を深めることによって、母校である鹿児島大学工学部あるいは大学院理工学研究科の益々の発展を皆さんとともに盛り立て、また、支えていただきたいということがあります。また、それとともに、昨今の厳しい財政事情の中で、工学部や理工学研究科の今後の教育・研究をより一層高め、活力のある人材育成を行うための一助となる財政的な支援もお願いできればと考えて、記念事業を実施したところでもあります。

なお、ご記憶の方も多いと思いますが、50周年記念事業では、記念式典や記念誌の発行等事業の他に、以下の事業を50周年記念の目玉の事業として執り行いました。すなわち、

- (1) 国際交流や学術講演が可能で、なおかつ、ユニークな記念会館の設置
- (2) 国際的視野立って工学研究の活性化と工学部教員の海外派遣の促進、高いレベルの研究者招聘や産学官共同研究のための助成金の創設

の2つです。このうち、(1)については、先にもご紹介しました稲盛和夫様にご寄贈頂くことをご快諾いただき、現在の工学部門前にある建築家安藤忠雄氏の設計による「稲盛会館」の建設が実現しました。

また、上記の(2)については、助成金の創出のために、同窓生を含め多くの方々に寄付および募金をお願いすることとなりました。そして、これらの活動を行うための受け皿として、同窓会の中には「工学部創設50周年記念事業期成会（会長：同窓会長）」を、また、工学部の中には「工学部創設50周年記念事業委員会（会長：工学部長）」をそれぞれ設置し、前者においては、募金や寄付金の受け皿となり、後者においては、事業計画を策定するとともに、下部組織の事業部会あるいは実行委員会において、当初の活動計画を実行していくことで、基金総額2億4千万円の50周年記念事業計画が確実に実行に移されました。

さて、これからが本稿の本題となります。先の表1の最後の方にも示しましたが、1945年に県立工業専門学校として設立された鹿児島大学工学部は、2020年に75周年の節目の年を迎えます。このため、上記いたしました50周年記念行事の先例を踏まえ、鹿児島大学工学部としては、あらためて工学部同窓会の皆様の力添えを賜りながら、新たな行事として、75周年記念式典を含めた事業を実施する方策を模索する必要があります。加えて、これを実行し、成功裏に終えるためには、過年の先例を踏まえると記念の年の3年前となります本年（2017年）より、この事業に向けた準備をしていくことが重要となると考えます。

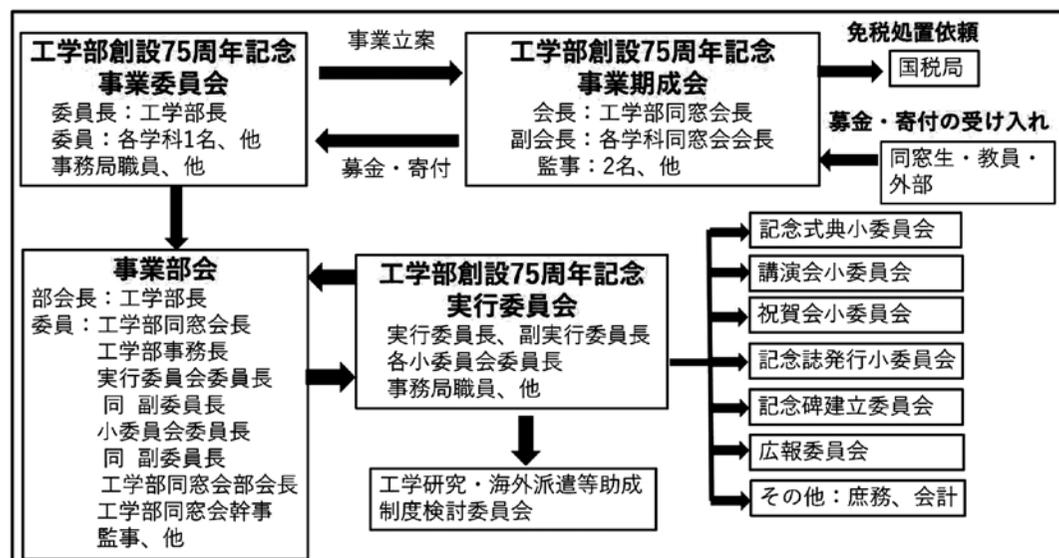


図1 工学部創設75周年記念事業実施のための組織体系の私案

そこで、図1には、僭越ながら、先の50周年記念事業を実施するにあたって構築された組織体制をベースとして、75周年記念事業を進めるにあたってのおよその事業実施体制の

私案を、工学部同窓会も含めた形で示させて戴きました。

本事業の実施体制を整えていく上では、先ず、工学部内に「工学部創設75周年記念事業委員会」を立ち上げる必要があると考えます。一方、この事業には工学部卒業生の皆さんの支援が不可欠なことは言うまでもなく、したがって、工学部同窓会にこの事業のバックアップをしていただくことの同意を得たうえで、工学部内に本事業関連の委員会を設置することを工学部長が了承して教授会に提案し、教授会で了解を得てはじめて、工学部としての活動を開始することができるものと考えます。つきましては、この点を踏まえ、是非、同窓会の皆様には75周年記念行事の進め方についてご検討・ご意見をいただきたく存じます。

なお、これもまた、本著者の個人的な思いではありますが、上記したような工学部から同窓会へ依頼があった際に、今回の事業の中で同窓会の皆様に是非ご検討いただきたいことがございます。それは、図1中にも記載させていただいております「工学研究・海外派遣等助成制度委員会」の設置と、この委員会による以下の項目に対する検討・実施のお願いです。すなわち、

- ① 国際的視野に立って工学研究の活性化と工学部の教員や学生のスキルアップを目指した海外派遣の促進並びに、高いレベルの研究者招聘にかかる費用などの補助のための基金の創設
- ② 高度な科学技術の開発のための産学官共同研究等に対する助成金の創設

についての検討です。

実は、これらの助成事業は、50周年記念事業においても特定テーマとして挙がっていたもので、その際には、故岩崎與八郎氏より頂いた岩崎国際学術交流基金、ならびに同窓生、教職員、企業法人様等からの募金を原資として決定された助成により、その後、教員や学生のスキルアップに有効に活用させていただきました。しかし、結局は、原資を取り崩すして活用する形のものとなってしまったことから、既に現時点では、原資が底をついた状態となっております。このため、特に、若手研究者や学生ができるだけ早い時期から見聞を広め、また、研究の足掛かりを掴み、将来の鹿児島大学工学部を背負って立つ人材となれるようにするためにも、上記のような助成制度は、恒常的に重要な位置づけにあると考える次第です。

したがって、これらの点も踏まえて、同窓会として、是非、工学部に対して継続的なご支援をいただけるような仕組みをご検討賜れば幸いです。

以上、今回の寄稿にあたり、鹿児島大学工学部の歴史を振り返る機会を得て、先輩諸氏のご苦勞とご努力を改めて感じたところです。一方でまた、将来の工学部生や大学院生並びに若手研究者に本学の将来を託す上で、彼らのスキルアップ支援をどのような形で作り上げていくかを、今すぐからでも考えておく必要があるのでは、と思う次第です。僭越、勝手なお願いで恐縮ですが、工学部同窓会の皆様におかれましては、上記のことについて宜しくご検討賜れば幸いです。

工学部同窓会諸活動支援

鹿児島大学工学部同窓会は、故 岸園司元工学同窓会会長奥様の岸園敏子様からの寄付金をもとに、「岸園基金」を設立しました。

本同窓会では、「岸園基金」を活用して、工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動を積極的に支援したいと考えています。平成28年度より「工学部同窓会諸活動支援」を創設し、下記の要領で募集します。

1. 実施目的：鹿児島大学工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動の支援
2. 支援対象：平成28年9月～平成29年3月の期間で工学部、理工学研究科、工学部同窓会部会が企画し、かつ同窓会会員が参加する次のような事業とする。
 - 工学部同窓会会員（在学生）の就職、進学、留学指導を目的とした集会、交流会、講演会など
 - 工学部同窓会会員および工学部教職員の研鑽を目的とした研修、講演会、集会、交流会、ワークショップ、発表会、展覧会など
 - その他、実施目的に添う事業

※工学部長が承認した事業1件/年、理工学研究科長が承認した事業1件/年、部会庶務幹事が承認した事業5件/年（各部会あたり1事業/年）

※採択された事業の企画者は、企画・事業内容を工学部全体に周知し、学科や部会の枠を超えて、参加希望者を募ることが望ましい。
3. 支援金額：一申請者につき一事業で、最大10万円まで
※支援金額は工学部、理工学研究科（工学系）の参加者数×2000円/人を目安とする。
4. 支援対象期間：4月から翌年3月まで
5. 応募方法：別紙応募申し込み用紙に必要事項を記入の上、工学部同窓会本部に申し込む。申し込み用紙は工学部同窓会事務局（窪田）にあります。

建築学科棟2階 開局日：月・水・金（10時～17時）
TEL / Fax：285-3494（内線8317）
E-mail：dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

平成27年度の試行支援の事例

H28年1月27日 理工学研究科（工学系） 理工学研究科アメリカ海外研修GOES交流会

*申し込みの際は、工学部長、理工学研究科長、部会庶務幹事の押印が必要。報告書には写真を添える。

平成28年度

部 署：錦水会

企 画：最先端科学技術に関する施設見学会および交流会

活 動 日：平成28年9月23日

活動場所：内之浦宇宙空間観測所、国民宿舎コスモピア内之浦（54名）

企画内容：電気電子工学科および情報生体システム工学科の学生が内之浦宇宙空間観測所を見学する。また、電気電子と情報生体システムの学生が交流し、宇宙航空開発機構（JAXA）の川崎繁男教授、電気電子工学科の教員と最先端の宇宙通信・宇宙電波科学について話ができる昼食交流会を実施する。

成果報告：電気電子工学科および情報生体システム工学科の学部生が受講する集中講義の中で、最先端科学技術に関する施設見学会および交流会を開催しました。会には、宇宙航空開発機構（JAXA）の川崎繁男教授、電気電子工学科の西川健二郎教授、そして、電気電子工学科と情報生体工学科の学生45名が参加しました。

当日は、8時30分に大学をスクールバスで出発し、国民宿舎コスモピアで昼食交流会を行った後、内之浦宇宙空間観測所を見学しました。交流会においては、参加教員と受講学生が集中講義のテーマである宇宙通信・宇宙電波科学などの話題について話をしながら、交流しました。内之浦宇宙空間観測所の見学では、川崎教授に設備の説明をしていただき、所内を見学しました。

本事業は、参加学生に、最先端の科学技術を身近に感じてもらうことで、今後の学習や進路選択の参考となる有意義な機会を提供できたと考えます。また、電気電子工学科と情報生体システム工学科の学生間の交流においても有意義な機会となりました。
（重井徳貴^{しげいのりたか} 准教授）



部 署：理工学研究科

企 画：理工学研究科グローバル人材育成支援室GOES海外研修懇親会

活動日：平成28年9月26日

活動場所：教育学部食堂エデュカ（工学部関係者29名）

企画内容：海外研修に参加希望者と海外研修に参加した学生の懇談会。特に海外企業研修の経験を分かち合う機会とする。

支援制度についての意見：この懇親会は研究科グローバル教育2017の海外研修希望者のために行いました。2015・2016に海外研修・留学に参加した学生や関係のある先生方に話を聞く良い機会でした。実り多い懇親会は同窓会の支援のおかげでした。
(ボウ コーザ 特任助教)



部 署：南窓舎密会

企画：講演会「先輩の話を聞いてみよう」（共催 環境化学プロセス工学科、化学生命工学科、南窓舎密会）、および演者・学生交流会

活動日：平成28年10月22日

企画内容：講演会「先輩の話を聞いてみよう」は、大学を出て10年以上経過した先輩方がどのような仕事をしているか、どのような学生を企業は望んでいるのか等、諸々の話を現役学生を含む同窓生に来てもらおうという企画で、2学科（環境化学プロセス工学科、化学生命工学科）、及び南窓舎密会の共催である。演者・学生交流会は、講演に興味を持った学生と演者とがより詳細な情報を交換できる場とすることを目的とするものである。

成果報告：講演会「先輩の話を聞いてみよう」では、107名の参加があり、以下のような2件の講演があった。仕事内容の紹介、エピソード、仕事での心構え、企業が望む学生像、等の話があり、現役学生を含む同窓生・教員等は熱心に聞き入っていた。いずれも就職後あるいは就活に活かされるものであった。演者においても、自らの仕事や会社を紹介することができ、有用な情報交換や交流が得られた。

講演1. 「環境を測る 環境計量事業について」

兒島 浩一 氏（昭和56年 応化修了、一般財団法人 鹿児島県環境技術協会 環境分析部長兼環境分析課長） 14：35－15：25

講演2. 「日阪製作所の経営理念 ～社会人を目指す皆様へ～」

前田 雄一 氏 (昭和49年 化工卒業、(株) 日阪製作所 代表取締役社長) 15:30-16:20

演者・学生等交流会 (18:20-20:00) では、42名の参加があり、講演に興味を持った学生、演者、その他同窓生・教員等がよく交流しており、より詳細な情報交換の場となっていた。
よしどめとしふみ
吉留俊史 准教授)



工学部同窓会学生諸活動助成金報告

今年度も各学科が企画する活動に対して助成金を出し活動支援を行いました。

平成27年度

学 科：機械工学科

企 画：平成27年度機械工学科卒業・機械工学専攻修了記念パーティー

活 動 日：平成28年3月24日

活動場所：ジェイドガーデンパレス（140名）

事業報告：卒業記念パーティーを通じて、卒業生・修了生の学生生活最後の楽しい時間を共有することができた。また、お世話になった先生方に感謝の意を伝える場にもなった。学業で最も優秀であった学生の表彰を行い、これまでの努力を称えることができた。本事業によって、皆の思い出に残るような年度末最後のイベントとなった。(森^{もり} 寛太^{かんた})



平成28年度

学 科：環境化学プロセス工学科

企 画：環境化学プロセス・化学生命ソフトボール大会

活 動 日：平成28年6月19日

活動場所：鹿児島大学教育学部グラウンド（60名）

事業報告：予定していたソフトボール大会はあいにくの大雨のため中止となってしまいました。いただいた助成金は参加者の保険料、景品、大会で使用する道具に使用させていただきました。事前に準備して中止となったため、景品は各研究室に振り分けさせていただきました。助成していただいた上で運営を行えたと思っていますので、この度は本当にありがとうございました。(三宅^{みやけ} 公弥^{きみや})

学 科：建築学科

企 画：建築学科1年生と教員の懇親会

活 動 日：平成28年11月1日

活動場所：学習交流プラザ（82名）

事業報告：建築学科1年生と教員、学生相談員の親睦がより深まった会となりました。1年生は、先生方や先輩から建築への心構えや人生の指針となるようなアドバイスを聞き、これからの学生生活に向けて、意識を高めました。また、1年生同士もりながよりへいの輪が広がった良い機会となりました。（森永涼平）



学 科：電気電子工学科

企 画：第47回電気電子工学科バトミントン大会

活 動 日：平成28年11月26日

活動場所：教育学部 第2体育館（50名）

事業報告：スポーツを通して、日頃あまり交流のない先生方や学生同士で交流を深めることができました。助成金をいただいたおかげで、参加者の負担もなく楽しい活動になりました。本当にありがとうございました。（新地 しんち 翼 つばさ）



学 科：化学生命工学科

企 画：冬季環境化学プロセス・化学生命 ソフトボール大会

活 動 日：平成28年12月4日

活動場所：教育学部グラウンド（約60名）

事業報告：時折小雨の降る天気ではありましたが本企画を開催しました。午前11時から午後5時まで活動しました。出場4チームの総当たり全6試合で順位を決定しそれぞれに賞品をお渡ししました。本来年2回企画される本大会も過去4回ほどは雨天中止となっており、久しぶりの開催ということもあり、参加者の方々から「とても楽しく充実した時間が過ごせた」との声を多く頂きました。助成金は優勝賞品及び大会運営費に使用させていただきました。助成金のおかげで本企画を成功させることができました。ありがとうございました。(石丸慎太郎^{いしまるしんたろう})



編集後記

本部編集幹事・木村 至伸

ここに工学部同窓会会報“南桜風”第15号をお届けいたします。

会報第15号では、各学科・専攻の近況や工学部同窓会を構成する各部会の活動状況などの紹介に加えて、特別寄稿【鹿児島大学工学部設立七十五周年に向けて】を掲載しております。ここでは、平成32年に迎える工学部設立75周年について、工学部の歴史を振り返るとともに、工学部設立75周年記念事業に向けた活動方針が記載されています。この事業を成功させるためには、同窓生の皆様全員のご協力が不可欠です。是非、ご一読いただき、工学部設立75周年記念事業に向けた活動へのご理解を賜れば幸いです。

創立75周年を迎えるということは、それだけ多くの世代で工学部同窓会が構成されている証かと思えます。この会報が、同窓生の世代を超えた交流の一助になれば幸いです。

最後になりますが、原稿の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

機友会編集幹事・余 永

今年度は会報の作成をスムーズに行うことが出来ました。これは偏に、原稿の執筆をして頂いた各支部及び本部の方々や学生のご協力によるもので、深くお礼を申し上げます。機友会の場合は、卒業生ではない教員が数年で幹事が交代します。私は今年度で、編集幹事を交代しますが、新しい編集幹事への引き継ぎをしっかりと行い、同窓会の活動に支障が無いように努めます。

錦水会学内編集幹事・重井 徳貴

記事を執筆いただきました、本部・各支部の幹事の皆様、ありがとうございました。部会だよりでは、支部・学内の活動状況に加え、本部総会の報告がありました。本部総会は、3年に1度の開催で、今回は平成31年度開催予定です。錦水会ホームページ(<http://kinsuikaisakura.ne.jp/>)には総会の予定や詳細な開催報告、同期会の報告などを掲載しておりますので、こちらも是非ご覧下さい。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

昨年度より、会報作成の編集幹事を担当させて頂いております。原稿作成にあたり、AOI会OB・OGの皆様にご協力を頂き、お陰様を持ちまして、何とか無事に入稿する事が出来ました。心よりお礼申し上げます。昨年度行った学科の全面改修も終了し、新たな環境でのスタートとなりました。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

南窓舎密会編集幹事・中島 常憲

南窓舎密会の母体である、環境化学プロセス工学科、化学生命工学科では、H28年度は、教員の入れ替わりはなく、教育研究活動に邁進しております。しかしながら、現役会員の各行事への参加状況は芳しくなく、活性化など議論が必要であると感じております。卒業生の皆様方よりお知恵を拝借しつつ、南窓舎密会を盛り上げていきたいと思っております。最後に、原稿等の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

しらなみ会学内編集幹事・小池 賢太郎

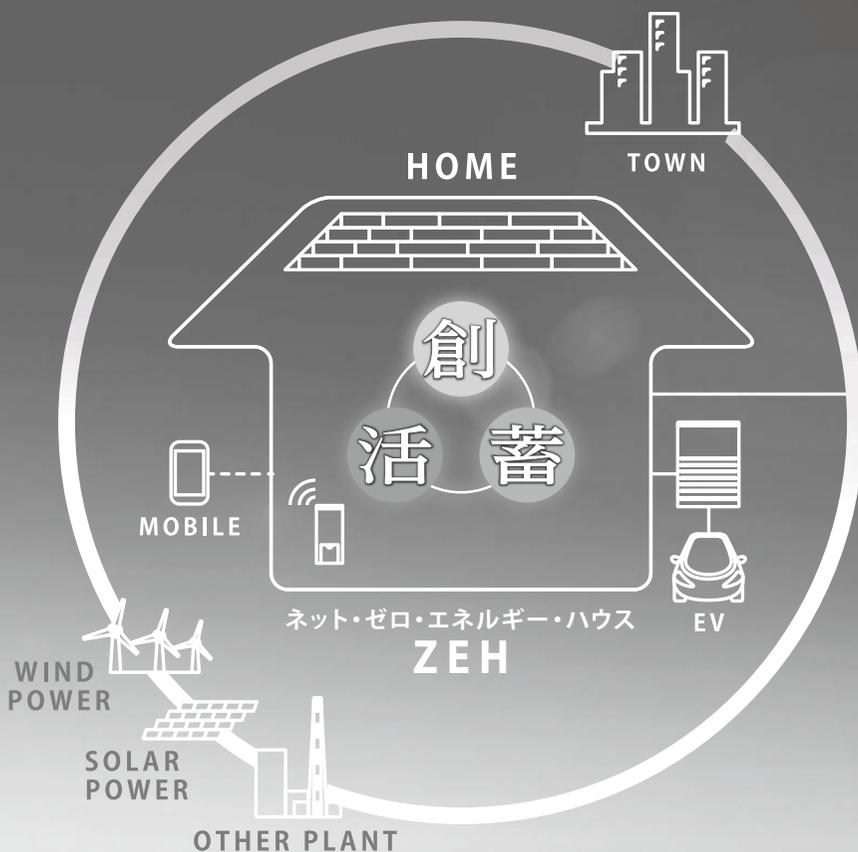
今年度より、しらなみ会学内編集幹事に就きました。当初は右も左もわからず非常に不安でしたが、多くの方々からの助力もあり無事に役割を全うすることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、しらなみ会学内編集幹事では、本会報の発行のみならず、しらなみ会のホームページ管理も兼任しておりますので、本部・支部の活動報告、イベント情報などの掲載情報などございましたら、随時ご連絡ください。よろしくお願い致します。

THE NEW VALUE FRONTIER



「わが家電力」で暮らせる毎日へ。



京セラは、技術力でエネルギーを変える。

KYOCERA
THINKING
ENERGY

Smile for you

— 総合建設業 —



株式会社 和田組

和田 正遠 (建築 昭和 25 年卒)

大分 本社
〒874-0919
大分県別府市石垣東 10 丁目 3 番 40 号
TEL 0977-25-1221 FAX 0977-21-3825

東京 支店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 4 丁目 21 番 16 号新宿ニューハウジング 1F
TEL 03-6276-8948 FAX 03-6276-8958

URL : <http://www.wadagumi.com>

E-mail : wadagumi@wadagumi.com



株式会社 ハマテックス

鹿児島県知事許可(特-26)第1771号



地域と人を塗装でつなぐ

代表取締役 濱園 誠 (海士 平成13年卒)

〒891-0131 鹿児島市谷山港1丁目3-34
TEL : 099-261-8400/FAX : 099-262-1022
Eメール : contact@hamts.jp
HP : <http://hamts.jp>

- 建築塗装工事
- 防水工事
- 外壁調査・改修工事
- 鋼構造物塗装工事
- コンクリート構造物改修工事

各種カーボン類・鉱産物・無機化学品輸入卸売

前畑産業株式会社 ミハラカーボン株式会社

代表取締役 前畑 康三
(昭和37年 工学部 応用化学科 卒業)

本社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-3-1-5F
TEL 03-3862-8901 FAX 03-3862-8903

営業所 大阪/名古屋/富山/北京(駐在事務所)/市原営業倉庫
中国を中心に、東南アジアから輸入・販売しています。

URL <http://www.mkw.co.jp/maehata/index.htm>

